

# INTERCULTURE

関西学院千里国際中等部・高等部 Senri International School of Kwansei Gakuin (SIS) | 関西学院大阪インターナショナルスクール Osaka International School of Kwansei Gakuin (OIS)

〒562-0032大阪府箕面市小野原西4-4-16 | 4-4-16 Onohara-nishi, Minoh-shi, Osaka-fu, 562-0032 JAPAN | TEL 072-727-5050 | FAX 072-727-5055 | URL <http://www.senri.ed.jp>

School Festival "Time Slip"

AISA Soccer, Swimming

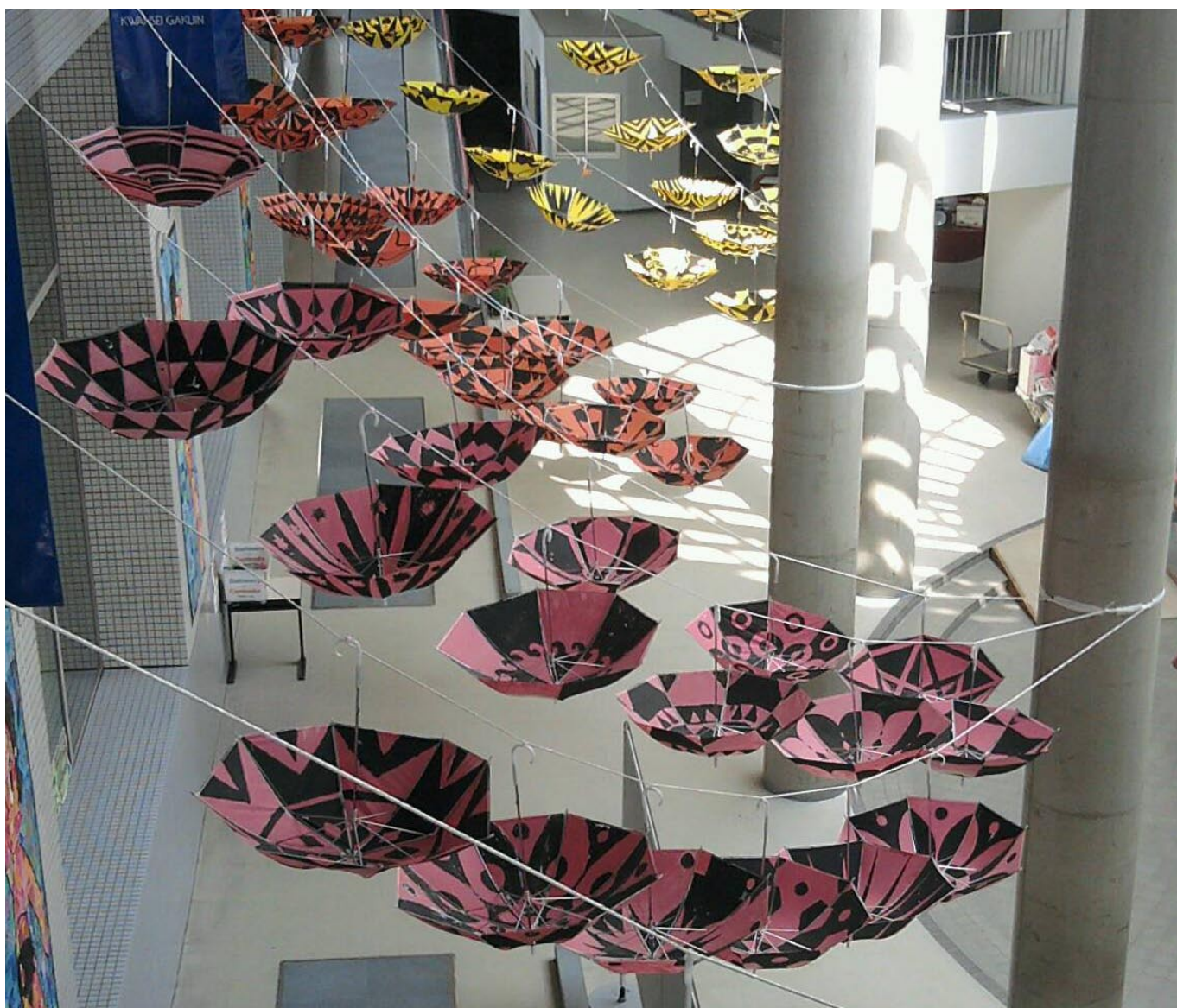
World Scholar's Cup

英検1級に4名合格

SPRING 2014 No.140

**I25**  
KWANSEI GAKUIN  
1869-2014

Be World Citizens Creating a Bright Future.



2014/5/20 SOIS Gr.8 Art Project

関西学院千里国際キャンパスは、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う関西学院千里国際中等部・高等部 Senri International School of Kwansei Gakuin (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする関西学院大阪インターナショナルスクール Osaka International School of Kwansei Gakuin (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、国内外のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(IMS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。

# 学びを深めるために

眞砂和典  
SIS校長

先日、ある先生が何日かお休みされるかもしれないと聞いた。私が代わりに授業に行った時に何ができるのかを考え始めて、1年前のインターカルチュアに書いた反転授業の事を思い出した。この動きはその後更に加速して、インターネットによる授業はアメリカだけでなく、日本の大学でも各校が取り組み始めている。中学や高校のレベルでも何かあるに違いないと探してみると、ちょうど引き継がなければならない範囲の授業の動画を見つけた。10分程のこの動画を教室で生徒達と見てみんなで考えるとどんな授業になるのだろうと想像してみた。A君が理解できなかったところをBさんが説明してくれるかもしれない。これはA君だけでなく、Bさんにとってもいい学びになるだろう。教員をしているといつも気づかされるのだが、相手に理解してもらうための努力はより深い理解に繋がる。これを経験していない教員がいるとしたら私はその先生の姿勢を疑う。このことこそが教員を絶えず成長させていると考えるからだ。

◇

「先生、この授業を録画してYou Tubeに載せませんか？」とか「先生の授業は You Tube にある動画よりもわかりにくいですよ。」とか言われてしまう時がくるかもしれない。塾や予備校ができた時もNHKの高校講座が始まった時も同じ状態にはなり得たのだが、今回は手軽さが違う。コンピュータ、iPadやiPhoneでいつでも無料で見るができるようになってきた。それでは学校がいらなくなるかというところではないはずだ。学ぶ形態を3段階に分けてみた。

- 1.読書などによって自分で学ぶ
- 2.人から教えてもらう
- 3.他の人と協力して一緒に学ぶ

1の自分で学ぶことは基本なのでいつでも必ず一定量はなければならない。これまでの一般的な学校の役割として教員が教えるだけの2は表面上の効率の良さはあるとしても理解や思考を深めるためには限界が見えてきている。他のふたつの段階がうまく並行して行われなければならない。3はこれからの若者に求められる力:「異なる能力を持った他者と協力しながら課題を解決する力」を育む大切な教育の形態になると思う。その条件として多様性に満ちた環境はとても大切だ。

だから、これから必要とされる学校、そして新しい授業を担う教員に取り組んでもらいたいのは授業を与えるだけではなく、授業のファシリテーター( Facilitator : 促進する役割を担う者)として様々な要素を取り入れることだ。生徒の深い学びを模索し、生徒のやる気を引き出していくことだ。そのために様々な仕掛けや道具を活用してもらいたい。

何かを修得するというのが一方的な授業によって成し遂げられたということは実は少ない。これは大人であれば自分の経験を通して納得してもらえと思うが、ある分野に関しては結構マスターできているとか、これには自信があるとかいうものは旧来の授業がきっかけになっていることは少ない。一年に1000時間の授業、それに加えて多くの補習をする学校はよくある。これほど多くの時間をかけてきた割にはその学びが活用できていないのは残念だ。



ここまでは私たち教員の側のみについて書いてきたが、授業の主演はもちろん生徒の皆さんだ。昨年の3月に学校を満期で退職されて、今はバリで日本語を教えている斉藤先生から時々現地のレポートが送られてくる。今回はバリの小学生の授業に対する姿勢が書かれていたので引用させてもらう。

…村に8つある小学校のうちの2つの小学校で1時間ずつ教えます。小学校では、授業の中で日本語を教える時間はないので、放課後4・5年生で習いたい生徒のみ教えることになりました。初めての日、さて何人来ているのか楽しみだったのですが、なんと、ほぼ全員の50名近くが着席していました。私が教室に入ったのは、授業開始の30分前だったのですが、もう全員が着席しているのです。そして、下級生や上級生が窓から中を覗いています。2校とも同じような状況でした。始まってみるとほとんどの生徒がひらがなを読めるのです。完全ではありませんが、学校で教えているわけでもないのに、驚いてしまいました。また、1回目の時、例の「もりのくまさん」の1番を教えたのですが、1度教えただけに、2回目の授業で教室に入ったら、もう1番を歌っているのです。メロディーを覚え、歌詞も覚えてしまったのです。たった1回の授業で、それも数回歌っただけで、です。鉄は熱いうちに打て、とは、まさにこのことです。授業時間は、早く始まったので、70分ぐらいいみっちりやったのですが、飽きもせず、皆とても熱心でよく笑い、よく恥ずかしがり、熱気の中で、終りとなりました。教室にはクーラーはもちろん、ファンもありませんし、50人近い子供達の熱気でムンムンです。私も汗びっしょり。第1小学校が終わり、第8小学校に移動し、同じように開始の約30分前についたのですが、もう全員待っていました。…

…3回目の授業日は、国民の祝祭日で学校は休みでした。第1小学校では、生徒は休みだと思ったのか、一人も学校にはいませんでしたので、「なし」としたのですが、第8小学校に行った時、生徒数人が来ていました。学校も閉まっていたので、今日はなしかな、と思っていたところ、生徒たちが、校長先生を呼びに行ってくれ、学校も教室も開けてもらえました。一度帰った生徒も授業  
(次ページ★に続く)

## 本校出身の木田真理子さん バレエ「ブノワ賞」受賞

2014年5月27日、バレエ界の権威ある賞「ブノワ賞(Benois de la Danse)」が発表され、スウェーデン王立バレエ団の第1ソリストで、本校出身の木田真理子さんが最優秀女性ダンサー賞を受賞しました。

ブノワ賞は、国籍を問わず、前年に最も活躍したダンサーや振り付け師、作曲家、舞台デザイナーらが選ばれるもので、木田さんが日本人初の受賞者となりました。

木田さんは4歳でバレエを始め、本校高等部1年生だった2000年、スイスのローザンヌ国際バレエコンクールで優秀賞を受賞。その後、アメリカのバレエ学校に留学、カナダのバレエ団などを経て、2012年からスウェーデン王立バレエ団で活躍しています。



# Looking Forward to a New Year

John Searle  
OIS Head



As we approach the end of the year my thoughts turn to the departure and arrivals of families and faculty. Two OIS families left to their home countries in May and this will be followed by more families and faculty leaving in June. This is the nature of an international school and life abroad for many expatriate families. The sadness we feel as people leave is tempered slightly by the anticipation of what lies in store for them in the next chapter of their lives. Additionally, the school community is excited to welcome new joiners in August.

Although I previously mentioned departing faculty members in an earlier Interculture article, I will need to add one more name to that list. Ms Leanne Stephen will be leaving for an international school in Singapore where she will take on a teaching and leadership position to develop the quality of the Diploma offerings there. It comes as little surprise that Ms Stephen would be sought after for such a role as we know from long experience her dedication to teaching and her ability to nurture her students to produce quality work year after year. Ms Stephen was part of SOIS at its founding and has contributed enormously to its development and the two schools' shared program in so many ways as a teacher, colleague and leader.

New faculty members will be joining OIS in August and some of them such as Ms Stephen's replacement will be working directly with SIS students. I am delighted to let you know that the next head of OIS will be Mr Bill Kralovec. Many of you may have had the opportunity to see Mr Kralovec during the interviews for the position last October. Mr Kralovec, is currently secondary Principal at the International School of Belgrade, and will bring a wealth of experience and insight to the position.

Mr Reynoso will take over from Mr Walker as the grade 5 teacher from August. Mr Reynoso is an experienced elementary teacher and was also an elementary principal in the US as part of his career. Mr Reynoso's position in middle school will be taken by Ms Marcella Cooper. Ms Cooper is currently teach-

ing in Thailand at the same school as Mr Gerard Coleman, who many of you remember was part of the science department at OIS. Ms Cooper taught in Canada prior to moving overseas.

Mr John Van Plantinga will be joining us from Hawaii and will be taking over from Ms Rennie, albeit in a different role. Ms Rennie's many duties will become part of a number of current teachers' responsibilities: Mr Frater will be in charge of scheduling in OIS; Ms Endo will become the IB Diploma coordinator and Ms Cooper will also be responsible for grade 7 Humanities and English. This has given us the opportunity to create a new position in which Mr Van Plantinga will be working with all teachers and students in the middle and high school on language support and with individual students on personalized learning plans

Mr Meadows' role will be taken by Ms Esperanza Garces. Ms Garces is an experienced Diploma visual arts teacher who has consistently achieved great results with her students. Ms Garces is currently teaching in the Philippines.

We look forward to this talented new cohort of faculty joining us and contributing to the continued development of OIS and the two schools model through their shared ideas and experience.

And finally, as we approach the summer, I would like to highlight everyone's ongoing efforts, both within and outside the classroom. The Student Council organized a wonderful School Festival and Fushigi Week and are currently busy with preparations for the Prom. The sports teams are all practicing toward the conclusion of their seasons, the musicians are practicing for their end of term concerts. Of course, these activities are not independent of each other as many students are involved in more than one. The OIS seniors have just finished their final exams and are away on their final service trip to Cambodia, and everyone is working hard on their classroom work assignments as final reports are being prepared.

As always, parents' support of your children is critical for their success through your continued interest and discussions with your children about what is happening at school. I hope to have the opportunity to meet many of the SIS parents at some time in the next few weeks before the end of this trimester.

(★前ページの続き)

があることを知って、結局20名弱が集まり勉強をしました。あとで聞いたところでは、私が学校に着く前に生徒たちは来て校門のところで待っていたのですが、学校が閉まっているので、帰ってしまったそうです。かわいそうなことをしました。しかし、自宅で休んでいた校長先生を連れてきて、学校を開けてもらってまでして、日本語の勉強をしたいという熱意はたいしたもの。生徒のこの気持ちを大切に、ますます、楽しみながら勉強ができるよう、教え方なども工夫していきたいと思いました。...

◇

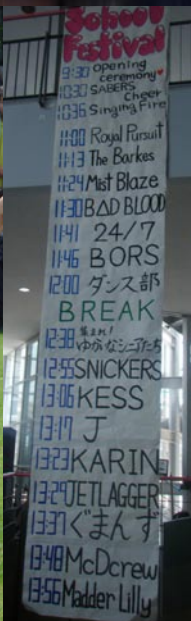
バリの子供達がこの姿勢を続ければ確実に日本語を修得していくだろう。そしてそれを斉藤先生の熱心な授業が後押しするだろう。

生徒が自分から進んで学ぼうとしなければ多くを学ぶことはない。「グローバル」を考える時に「世界に負けない」という所に意識がいく人も多いが、このようなグローバルの視点からもから考えてもらいたい。



Two Schools Together

# School Festival 2014



## 学園祭も終わってしまいました

私は12年生なので最後の学園祭になります。なにもかもが最後の学年。学校内でのイベントが一つ終わってしまい、悲しく感じています。今年の学園祭はなんだか少し違う感じがしました。学園祭と後夜祭でのパフォーマンスでも12年生が数多く参加していました。お店でも12年生が下級生に負けず劣らず張り切り、皆全力を出しました。今年も例年通り非常によかったと思います。

来年はどうなるのか？私は非常に気になります！しかし来年私はいません。そこで次の主役はこの記事を読んでも下級生諸君です。次の学園祭は君たちにかかっている！といっても過言ではないでしょう。私たち先輩が戻ってきても「ああ変わらねえな」と言えるような学校にしてください。  
(Student Reporter F)





# Theme "Time Slip"



## 不思議ウィーク

「不思議ウィーク」は、毎年学園祭前に行われる、普段とちょっと違った服装などをしてみようという企画です。今年は、特に目立っていた生徒には賞が贈られるというイベントもありました。今年のテーマは、月曜日「スポーツ」火曜日「パジャマ」水曜日「SP.犯人」木曜日「先生」金曜日「学園祭」でした。(Student Reporter A)





## Two Schools Together

# Submit all athletics forms via Sabers website: [sabers.senri.ed.jp](http://sabers.senri.ed.jp)

Peter Heimer

*Activities Director*

The Sabers athletics schedule is a busy one with many events home and away almost every Saturday. Most tournaments (WJAA, AISA, Sabers invitationals) are listed on the school calendar.

But for much, much more information – weekend schedules, reports, photos, Sabers TV videos, permission forms, homestay information – just about any kind of Sabers information you may need – please visit the Sabers athletics website at [sabers.senri.ed.jp](http://sabers.senri.ed.jp). You can also read the Sabers activities handbook, submit digital copies of your passport, and view a Google calendar that shows Sabers events, times, and locations.

**IMPORTANT CHANGE:** From now, athletics forms for team sign-up, sportsmanship agreement, parent permission, medical waiver, and homestays must be submitted via the Sabers website. Go to the “Forms” tab on the website for more information.

No submission = no practice. No practice = no play. No play = no fun. Let's have fun. Go Sabers.



<http://sabers.senri.ed.jp/>

セイバーズ スポーツに参加するためには、必要な手続きをセイバーズのホームページ ([sabers.senri.ed.jp](http://sabers.senri.ed.jp)) 上で完了してください。

毎週土曜日に本校や近隣のインターナショナルスクールにおいて、スポーツの試合が行われています。セイバーズのホームページ ([sabers.senri.ed.jp](http://sabers.senri.ed.jp)) では、学校が発行するカレンダーに記載されているスポーツの各大会 (WJAAやAISA、セイバーズ招待試合) の日程に加えて、週末に行われる試合のスケジュール (開催場所や開始時間) やその結果を確認していただけます。また試合でハットラツとプレーしている生徒の写真や、隔週水曜日に放送されるセイバーズTVの映像などもご覧いただけます。それ以外にも、セイバーズ・アクティビティー・ハンドブックやホームステイに関するご案内、セイバーズ スポーツに参加するために必要な保護者承諾書などの提出書類一式などが、ホームページからご覧いただけ、提出することができます。この機会に一度、ホームページにアクセスしてください。

### ＜重要＞

これまで、セイバーズ・サインアップ・フォームやスポーツマンシップ同意書、保護者承諾書、健康調査書、ホームステイに関する書類をプリントで配布し、提出してもらっていましたが、今年度からは全て、オンライン上での提出に変更しました。スポーツに参加するために必要な全ての書類を、セイバーズのホームページを通じて必ず提出してください。未提出の場合は、練習や試合に参加することができません。セイバーズの一員として楽しい時間を過ごすために、全ての書類の提出をお願いします。詳しい情報は、セイバーズのホームページの「Forms」内をご覧ください。よろしくお願い致します。

### WJAA and AISA

SOIS belongs to two competitive activities leagues, one domestic and one international, each with season-ending championship tournaments.

The domestic league is called the Western Japan Activities Association (WJAA) and consists of several schools:

- Canadian Academy (Rokko Island, Kobe)
- EJ King High School (Sasebo)
- Fukuoka International School
- Hiroshima International School
- International Christian Academy Nagoya
- Kyoto International University Academy
- Marist Brothers International School (Suma, Kobe)
- MC Perry High School (Iwakuni)
- Nagoya International School

- Senri and Osaka International Schools of Kwansei Gakuin
- Sons of Light School (Takarazuka)

Our international league is called the Association of International Schools in Asia (AISA), which consists of four schools:

- Korea International School
- Senri and Osaka International Schools of Kwansei Gakuin
- Seoul International School
- Yokohama International School

Through AISA, SOIS students participate in many activities: basketball, volleyball, soccer, swimming, tennis, band, orchestra, choir, student council, and mathematics. Season-ending events are held each year at a league member school on a rotational basis.

# Sabers wrap up successful AISA campaign; athletic awards celebration next

SOIS athletes, musicians, mathematicians and leaders have wrapped up another year of participation in the Association of International Schools in Asia (AISA), our sixth year in the league. 2013-14 was a successful AISA year for SOIS, with three team championships (girls volleyball, boys volleyball, boys soccer), a girls tennis individual champion (Kana Yokoyama), and a choir event that the festival director called the best of his career. Please see below for details of 2013-14 AISA results.

AISA consists of four member schools from Japan and Korea: Senri and Osaka International Schools, Yokohama International School (YIS), Korea International School (KIS), and Seoul International School (SIS). Each year, students from these schools participate in twelve events: girls tennis, boys tennis, girls volleyball, boys volleyball, girls basketball, boys basketball, girls soccer, boys soccer, girls/boys swimming (combined), chorus, math mania, and student leadership. SOIS is a founding member of this association. AISA forms the main avenue for overseas competition and performance for SOIS students and provides opportunities for valuable international experiences for our school community.

A fifth school, British School of Beijing (BSB), has applied for membership in AISA. This application is a two-year process that includes a trip to Beijing for our student council leaders and math students in January 2015. BSB website: <http://www.nordangliaeducation.com/our-schools/beijing/shunyi>

For more information about AISA, please visit the Sabers website at <http://sabers.senri.ed.jp/aisa>.

AISA success lies in large part in the homestay experience. Throughout this past school year, nearly 30 SOIS families graciously opened their homes to over 50 visiting students from Korea: boys volleyball players and boys and girls choir members.

Another important part of an AISA event is the concluding banquet. While the other AISA schools hire catering services to prepare their tournament banquets, here at SOIS our banquets are prepared entirely by the SIS Parents Association (PA). SIS PA members, under the superb leadership of Mrs. Barke, prepared two banquet meals this past school year. Visiting athletes and coaches have expressed great praise for the high quality of the banquet meals.

The Sabers sports year culminates with the annual SOIS high school athletic awards celebration, held this year on June 6. This is a two-part event. First, in the theater, all teams are recognized with photos of the seasons and announcements of most valuable players and most improved players. Then, in the cafeteria, students and coaches enjoy a meal (again wonderfully prepared by the SIS PA), where two major awards are announced: the Dr. Fukuda Award to the top SOIS scholar-athlete, both male and female; and the Outstanding Athlete of the Year

Award to the best all-around Sabers athlete, both male and female. This is a fun, important event that celebrates all of the many positive aspects of the Sabers athletics program.

Finally, if you are already looking ahead to next year, the Sabers host three AISA events. Below is a list of the 2014-15 AISA events, dates, and locations.

## AISA EVENTS 2014-15

October 16-19: volleyball girls @YIS, volleyball boys @SIS, tennis @SOIS

November 6-9: choir @KIS

January 29-February 1: basketball girls @SOIS, basketball boys @YIS, math/leadership @BSB (Beijing)

April 9-12: soccer girls @SIS, soccer boys @KIS, swimming @SOIS

## AISA RESULTS 2013-14

TENNIS girls @YIS: 2nd place

Girls singles champion: Kana Yokoyama (3rd year in a row)

TENNIS boys @YIS: 3rd place

VOLLEYBALL girls @SIS: 2nd place; sportsmanship award

All-tournament team: Hina Kawamura, Miyu Kawabata, Asuka Shimo

VOLLEYBALL boys @SOIS: undefeated champions (2nd year in a row)

All-tournament team: Ryotaro Kawano, Kota Nakayama, Rintaro Miyamoto, Aki Shigeyama

BASKETBALL girls @KIS: 3rd place

All-tournament team: Hiroko Wanibuchi (2nd year), Kana Asai

BASKETBALL boys @SIS: 4th place

All-tournament team: Kai Stewart (2nd year), Shaw Iyama,

SOCCER girls @SIS: 2nd place

All-tournament team: Natsuho Oura, Kana Asai, Minami Uemura

SOCCER boys @KIS: Champions, sportsmanship award winners

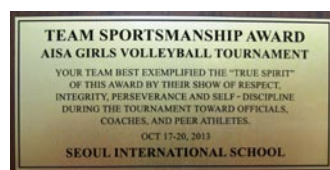
All-tournament team: Noritaka Araki, Takashi Homma, Gerardo Takeuchi

SWIMMING girls, boys @KIS: 3rd place

MATH MANIA @YIS: 3rd place

High SOIS scorer: Jim Jiang

Scores and individual awards are not given out at the following AISA events, but SOIS students performed at very high levels at each of them: LEADERSHIP @YIS, CHOIR @SOIS.



2013 AISA girls volleyball sportsmanship award



2014 AISA boys soccer sportsmanship award

## Two Schools Together

# AISA Boys Soccer at Seoul International School

April 11–12, 2014



### What an incredible season! AISA CHAMPIONS 2014!

Isaac Driver

*Coach*

Once again this season the passion for the game of soccer that the Sabers players demonstrated was exciting and impressive. Our captains for the second year, Rion Mukaiyama and Ken Sogo showed great leadership skills and responsibility towards the development of the team. Training sessions were planned and directed collaboratively to address the fundamentals and tactical aspects of the game. This season I believe that the increased responsibility and involvement amongst all the players helped contribute to a greater intrinsic desire for success.

To kick off the season the Junior Varsity players impressed in another wonderful Dolphin Cup tournament at Nagoya International School. All the matches were close and all the teams fought hard for their results. A close semi final loss left Sabers battling for the 3rd place trophy which we deservedly took. Meanwhile, our Varsity squad headed to Canadian Academy with cautious confidence and a strict game plan. As underdogs a fantastic away from home 1:1 score draw sparked team belief and left CA unexpectedly frustrated.

We returned to Canadian Academy after the Spring Break with both our Junior Varsity and Varsity teams. The strange Rokko island weather provided snow and warm sunshine. After a great run into the semi finals we bowed out on penalties after extra time. Huge disappointment was comforted by our victory for 3rd place and our Junior Varsity victory in the day two Futsal tournament. In hindsight it was these moments of despair

and victory that helped shape the ultimate success of the season.

SOIS hosted the Futsal Tournament which was once again a wonderful day of explosive football. After many matches one of our teams rose to the final with some incredible individual and team performances. After losing in the final last year SOIS clinched a 3:2 victory this year in a tense and thrilling final against MC Perry. Futsal Champions 2014!

That brings us to the grand finale, AISA 2014 hosted by Seoul International School. It was a really wonderful and well organized tournament during which all the players showed tremendous sportsmanship and respect for their opposition but to cut to the chase, we won! To summarize in a few words all the ecstatic highs and tense moments during a tournament victory of this magnitude simply doesn't do it justice. The entire SOIS team performed with a maturity, commitment and passion that was truly commendable. It's the first time SOIS has won the tournament and I know it won't be the last.

To top off the season SOIS also won the AISA Team Sportsmanship Award as voted for by the coaches of all the teams. To collect this award as the tournament's victorious team demonstrated the depth that the opposition respected our exciting play and honorable sportsmanship. If that doesn't make you feel proud as a player then nothing will. After all, that's what it's all about isn't it? Winning with humility and losing with dignity. That's how sport has such a profound impact on every aspect of what we do. Congratulations Sabers Boys Soccer 2014. Bring on the 2015 season!



## Two Schools Together

# AISA Varsity Girls Soccer at Yokohama International School

April 11–12, 2014

Stephen Frater

*Coach*

- Tournament: AISA HS Girls Soccer, 11–14 April 2014

- Squad: G12 Kana Yokoyama (vice captain), Hitomi Tomi, Nami Ambiru, Shiori Hasebe, Aina Sasaki; G11 Natsuho Oura (captain), Sakiko Otsuki, Fuka Ugai, Miki Chisoku, Kanako Tsutsumi, Momo Nakakita; G10 Ai Kano, Kaho Fujihira, Risa Akiyama, Chisato Komatsu.

In early April, 15 players of the girls' varsity soccer team travelled to Yokohama for the end-of-season AISA tournament. The competition was between SOIS, the hosts, Yokohama International School (YIS), Korea International School (KIS), Seoul International School (SIS) and two guest teams from Tokyo, International School of the Sacred Heart (ISSH) and St. Maur International School. The tournament was played under beautiful blue skies and bright sunshine over two days, and was very well organized and generously hosted by the YIS Athletics Director Elliot Tracy, with a team of YIS parents in support.

The SOIS Sabers played the first game of the tournament on Friday morning, beating KIS 2-1 with two goals from our central midfielder and captain Natsuho Oura. That goal from KIS turned out to be the only goal that the team conceded from open play in the whole tournament, testament to the superb organization, skill and commitment of our defence under the direction of vice captain Kana Yokoyama. After lunch the girls then played St. Maur, another Yokohama team that none of the team or coaches had played against before. The Sabers won the game 7-0, with everyone of our forwards and midfielders scoring a goal, including Hitomi Tomi, Ai Kano, Natsuho Oura, and Sakiko Otsuki. After two hard fought games, the girls then enjoyed an evening out in the Minato Mirai 21 complex in Yokohama with the other squads and some of the YIS parents.

The two wins on Friday put the team at the top of the group, and into the semi-final game on Saturday morning against the hosts, Yokohama International School. The team came close to scoring several times, keeping the YIS goalkeeper very busy, whilst our 'keeper, Risa Akiyama, had very little to do. However the game ended 0-0, which meant the game, and a position in the final, would be decided on penalties. Sakiko, Natsuho



and Momo Nakakita all scored from the penalty spot, whilst Risa, in her AISA debut, saved all three of the YIS penalties she faced. That gave the Sabers an unbeatable lead, and a place in the final, where we faced KIS once again.

SOIS were the only team to beat KIS in the tournament, so the final was another close game. Although the Sabers again came close to scoring several times, we were consistently denied goals by great saves or the width of the post. After a 0-0 game it was down to another penalty shoot-out for the championship. Although Risa did wonderfully well to save another penalty, SOIS failed to score with three of our penalties and KIS took the trophy with their fifth penalty. It is the first time that one of the Korean schools has won the AISA soccer tournament, and to their credit both KIS and SIS have been getting stronger every year. A disappointing result for SOIS, but from the sidelines coach Fitzpatrick and I thoroughly enjoyed all of our games and are very proud indeed of the whole squad.

The final was followed by a slideshow, a great dinner and awards back at YIS. In addition to collecting the runner-up plaque, there were special awards for four of the Sabers who

(次ページ★に続く)





## Two Schools Together

# AISA Swimming

## at Korea International School

April 11–12, 2014

Kevin Bertman

*Coach*

The Sabers Swim Team of Senri and Osaka International Schools of Kwansei Gakuin (SOIS) travelled to Seoul to participate in the AISA tournament against Korea International School (KIS), Seoul International School (SIS) and Chadwick International School (CIS). The event was hosted by KIS and staged over two days. SOIS was represented by twelve students who stayed with the families of students of KIS for the duration of the event.

The events covered all strokes over 50 m and 100 m, freestyle 200 m and 400 m, individual medley 100 m and 200 m, and boys, girls and mixed 200 m medley and free style relays. The swim team at SOIS is small and still growing, so although we were unable to match the speed of some of the top swimmers from KIS and SIS, we managed to win many of our heats. Our best result was in the mixed 200 m medley relay in which we came second in the final.

Two students who really stood out are Neal Takeyoshi Okuno, who has shown great leadership, teamwork and organizational skills not only during the event but over the whole season, and Kana Tagawa who swam back-to-back relay races



which included 50 m butterfly in the second event only minutes after completing the first event.

For many students it was their first time competing in a swimming competition. It was a great experience for them, and next year they will be back stronger, fitter and faster. They did an admiral job and should all be proud of themselves.

(★前ページの続き)

were selected for the AISA tournament all-star team; winger Hitomi, midfielders Natsuho and Sakiko, and centre half Fuka Ugai, who were consistently outstanding in their positions.

Although four players were singled out for the all-star team, in truth our whole squad really clicked in this tournament; every one of the players produced their best performances of the season, and the squad's spirit, team play, organization, communication, competitiveness and sportsmanship were superb:

- The defence of Risa Akiyama, Kana Yokoyama, Shiori Hasebe, Miki Chisoku, Kaho Fujihira, Kanako Tsutsumi and Chisato Komatsu conceded only one goal the whole tournament, and no team came close to scoring any more;

- Our centre halves Fuka Ugai and Nami Ambiru were dominant, patrolling in front of the defence to break up any attacks, man-marking key players, and winning possession for the Sabers to launch attacks;

- The midfield of Ai Kano, Natsuho Oura, Sakiko Otsuki, Hitomi Tomi, Momo Nakakita and Aina Sasaki scored nine and came within a hair's breadth of scoring twice as many as that by attacking at speed and causing the opposition defences all kinds of problems.

It was a genuine pleasure to watch these games (penalty shoot-outs aside), and it was a wrench to see the squad have to split up on our return to Osaka. After two tournaments and second-place finishes in both WJAA and AISA, the team can look back on their achievements with a lot of pride, and we are all looking forward to next season already.

I would like to end by recognizing Natsuho and Kana for their hard work and inspiring leadership this season, and to say a special thank you to Ms Ito, the principal of SIS, who accompanied us to Yokohama and so enabled us to attend the tournament.



## Two Schools Together

# 11 People Placed in Suita City Duathlon

Hiroshi Baba

*Triathlon Coach, SIS math*

### ■3/9 箕面森町妙見山麓マラソン

Minoh Shinmachi Marathon was held on March 9th in Minoh Shinmachi. In total 19 people from SOIS participated and one person placed.

#### <Placed>

5km Male Over 50: 6th 馬場博史 Hiroshi Baba (Faculty)

#### <Good Records in SOIS>

5km 藤戸美妃 Miki Fujito (SIS8), 馬場優人 Yuto Baba (OIS8)

10km 藤森史恩 Shion Fujimori (SIS9), 谷内拳 Ken Taniuchi (SIS8), 宮脇昌志 Masashi Miyawaki (SIS8), チェニー タラ Tara Cheney (Faculty)

### ■5/18 吹田市デュアスロン

Suita City Duathlon was held on Sunday, May 18th at Suita-shi Sogo Undojo. In total 22 people from SOIS participated and 11 people placed in each category.

#### <Placed>

Gr.7-9 (Run 2km, Bike 10km, Run 3km)

Boys: 1st 馬場優人 Yuto Baba (OIS8), 2nd 宮脇昌志 Masashi Miyawaki (SIS8), 3rd 谷内拳 Ken Taniuchi (SIS8)

Girls: 1st 中山ゆか Yuka Nakayama (SIS8), 2nd 藤戸美妃 Miki Fujito (SIS8), 3rd 岡崎季良々 Kirara Okazaki (SIS9)

Gr.10-Age 39 (Run 2km, Bike 15km, Run 5km)

Male: 1st 前田隼矢 Syunya Maeda (KGOB, Coach), 2nd 竹内ヘラルド Gerardo Takeuchi (SIS11), 3rd 北野裕也 Yuya Kitano (SIS11)

Female: 1st 安岡加紗音 Kasane Yasuoka (SIS10)

Age 40 and Up (Run 2km, Bike 15km, Run 5km)



Male: 2nd 馬場博史 Hiroshi Baba (Faculty)

### ■5/25 丹波トライアスロン

Tamba Triathlon was held on May 25th in Tamba city. In total 11 people from SOIS participated and 1 person placed.

今回はご家族の方も多数参加されました。一般リレーの部に、宮脇千恵美さん(SIS8年保護者=Swim)、藤戸嘉子さん(SIS8年保護者=Bike)、米永知子さん(SIS10年12年保護者=Run)が出場、また一般男子の部に藤戸努さん(SIS8年保護者)、小学生の部には妹さん弟さんも参加、全員が完走されました。おめでとうございます。

#### <Placed>

Gr10 and Up: S400m+B20km+R5km

U40 Male: 2nd 前田隼矢 Syunya Maeda (Coach, KGOB)

#### <Other Finishers>

Gr10 and Up: S400m+B20km+R5km

北野裕也 Yuya Kitano (SIS11)

Gr7-9: S200m+B10km+R2km

宮脇昌志 Masashi Miyawaki (SIS8), 藤戸美妃 Miki Fujito (SIS8), 武田七海 Natsumi Takeda (SIS8)

## HS Athletic Awards on June 6

2014 Dr. Fukuda Scholar-Athlete of the Year

Female: Mayuri Hasegawa; Natsuho Oura (co-winners)

Male: Rintaro Miyamoto

2014 Outstanding Athlete of the Year

Female: Hina Kawamura

Male: Kota Nakayama





## Two Schools Together

## World Scholar's Cup

at Senri &amp; Osaka International Schools of KG

May 3-4, 2014

水口 香  
SIS英語科

5月3日・4日、第一回World Scholar's Cup Kansai RoundがSOISで開催されました。World Scholar's Cupとは、将来有望な学者になるであろう高校生・中学生を対象に、世界40カ国で開かれている知識量と思考力を競うトーナメントです。2年前に東京の開成中学・高等学校で関東地区予選が開催され、今回ようやく関西でも開催されることになりました。トーナメントでは、3人で1チームを作り、2日間かけてライティング、ディベート、マーク式テスト、クイズ形式で競います。問題は事前に知らされており、本年度は、「スパイの歴史」、「生物学・心理学的にみた心の働き」、「詩・小説の内なる声を聞く」、「学際的にみる絵画と建築」、「決断のしくみ」、「壁に囲まれた社会」といったように、中学生・高校生にはかなりレベルの高い範囲から問題が出されました。しかしながら、選手たちは事前に膨大な量のノートを作り、テクノロジーを駆使し、本番に臨みました。今回は西日本から合計8チームの高校生・中学生が参加し、遠くは久留米市から参加したチームもありました。SOISのチームは各部門で優秀な成績を収め、シンガポール大会への出場権を得ました。シンガポール大会は、6月下旬に行われ、世界各国の競技会を勝ち抜いてきた2000人の選手と戦います。さらにこの中から選ばれた強豪チームが、11月に米国イェール大学で行われる決勝戦に挑みます。今回、SOISからはG11の藤井彩由さん、尾沢百音さん、山中雅恵さん、高田あかりさん、石井伶和さん、中來田桃さん、G9の中尾茉莉さん、中川愛さん、中村沙羅さん、村上スミス明さん、向山あいるさん、吉本沙生さんの合計12名が参加しました。またボランティアとして、G10車咲希さん、G9 谷口知佳さんが選手のサポートしてくれました。

本年度トーナメント実施にご協力いただきました皆様、どうもありがとうございました。また授業やホームルームで選手を励ましてくださった先生方のご支援により、参加者は貴重な経験をさせていただくことができました。お礼申し上げます。

今回、ワークショップを開き、参加者を励まし続けてくださったMr. Sheriffのレポートと、SISからの参加者、9年生の中川愛さんのコメントです。

**Steven Sheriff (SIS English)**

The first day of the World Scholar's Cup started in the theater with Nathan Levin, the organizer and emcee, building the



energy and excitement with music and sending stuffed alpacas flying into the seats. After mimicking the sound of a happy alpaca, the students had a few moments to meet each other and prepare for the day's challenging events. The first event was collaborative writing. For this event each team had 25 minutes to discuss ideas and rhetorical strategies before each member wrote a persuasive essay on different topics. At the end, each team was then given time to review their teammates' essays and offer revision suggestions. The second event required participants to partake in a more traditional academic exercise—an 120 question multiple-choice test covering the six different disciplines covered in this year's competition. After a quick lunch, the students then started in on the debate competition. Each team debated three times on resolutions they had never seen before. The topics were both thought provoking and playful. One of them read: "Resolved—The world needs more ninjas." Judges assessed each team by their presentation skills, rhetorical strategies, the quality of their evidence and teamwork. As one of the judges, I marveled at how all the students were able to speak with such confidence and poise. Two SOIS teams met in the final round. After a full day of what can only be termed a true academic triathlon, the students were exhausted, but also clearly stimulated and excited about the next day. I was as well.

The second day started with more music, dancing and flying alpacas. Nathan was accompanied by another WSC official,

(次ページ★に続く)



## Two Schools Together Eiken Report Winter 2014

Rodney Ray

SIS English

### 英検1級に4名合格

The following students have reported recent results on the Society for Testing English Proficiency's (STEP) Test in Practical English Proficiency (Eiken). Special congratulations to Emi Hashizaki, Ibuki Kashiwagi, Airu Mukaiyama and Kanako Tsutsumi, who passed Level 1. おめでとうございます！

Good job everybody! Remember, if you take the Eiken, be sure to report your results to Onodera-san in the Business Office.

| School | Grade | Class | Student Name     | Grade          |
|--------|-------|-------|------------------|----------------|
| SIS    | 10    | 2     | Hashizaki, Emi   | 1級 (Grade 1)   |
| SIS    | 12    | 3     | Kashiwagi, Ibuki | 1級 (Grade 1)   |
| SIS    | 09    | 2     | Mukaiyama, Airu  | 1級 (Grade 1)   |
| SIS    | 11    | 4     | Tsutsumi, Kanako | 1級 (Grade 1)   |
| SIS    | 12    | 2     | Amano, Ryosuke   | 準1級 (Grade P1) |
| SIS    | 08    | 2     | Horai, Arina     | 準1級 (Grade P1) |
| SIS    | 12    | 4     | Suzuki, Yusuke   | 準1級 (Grade P1) |
| SIS    | 12    | 2     | Takagi, Yuuka    | 準1級 (Grade P1) |
| SIS    | 12    | 2     | Ambiru, Nami     | 2級 (Grade 2)   |
| SIS    | 11    | 1     | Hirano, Natsu    | 2級 (Grade 2)   |
| SIS    | 11    | 3     | Nakahara, Takuma | 2級 (Grade 2)   |



|     |    |   |                  |              |
|-----|----|---|------------------|--------------|
| SIS | 12 | 1 | Nakayama, Kota   | 2級 (Grade 2) |
| SIS | 11 | 2 | Sugimoto, Haruka | 2級 (Grade 2) |

### 国連英検A級に合格

In addition, the following student has passed the United Nations Association's Test of English (国際連合公用語英語検定試験), which is a standardized test of English and facts about the United Nations administered by the United Nations Association of Japan. Congratulations, Akari!



| School | Grade | Class | Student Name  | Grade       |
|--------|-------|-------|---------------|-------------|
| SIS    | 11    | 3     | Takada, Akari | A級 (ClassA) |

(★前ページの続き)

Burch, who raised the energy level with his humor, dance moves and uncanny alpaca imitation. The final event of the Cup, called the Scholar's Bowl, presented each team with a series of increasingly difficult questions that they solved collaboratively and answered with a clicker. This was a challenging task, but students enjoyed the energy and the multimedia aspect of the questioning. Clips from movies such as Frozen and The Lord of the Rings were often used to frame certain questions. Did you know that the video for "What Does the Fox Say" was filmed in a style reminiscent of Dadaism? I didn't. Following the Scholar's Bowl, the best debaters from the previous day came forward to perform a Debate Showcase. Three SIS students—Meg Nakagawa, Momone Ozawa and May Murakami-Smith—were chosen for this honor and proceeded to wow the audience with their articulation and power of persuasion. Impressive.

The World Scholar's Cup bills itself as more of a celebration than a competition and this certainly proved true during the awards ceremony. The SOIS teams took home the top awards in all the categories. Some of the girls had so many medals hanging from their necks, it appeared as though they might topple. More importantly, participants had the chance to apply their academic and English skills in a communal event. They competed, but also worked together and had the chance to meet students from other schools. All of our SOIS teams performed

so well that they were asked to compete at the global round in Singapore this June. Again, impressive. I must also commend the competing teams from Kurume University High School and Kobe College High School for their high level of preparation and commitment.

It has been an honor for me to help coach the SOIS teams with Minakuchi-sensei. This first event was such a positive experience that as I left the school on Sunday afternoon, I found myself bleating like a happy alpaca—phweiiii, phweiii. I wish all our students the best in Singapore and then, hopefully, at Yale University for the Tournament of Champions.

### Meg Nakagawa (SIS9)

The weekend consisted of two full days of debating, testing and writing. SOIS came in first place for all subjects. However, the World Scholars Cup is not all about winning or losing. It's about the celebration of learning and meeting new people. Scholars became friends with scholars from other schools and teachers as well. Everything is nerve wracking at first but as you get to know the people you're competing against, that nervousness becomes pure fun. The World Scholars Cup emphasizes the art of teamwork, collaboration, and friendship all at the same time. The World Scholar's Cup allows students to discover strengths and skills they never knew they had. This year only 24 students participated however in the future, we hope to have more and more students take part in this thrilling event.

## Two Schools Together ようこそバイリンガル図書館へ

青山比呂乃  
図書館

### \* 図書歴代貸出記録

毎年恒例日本語図書最多貸出記録の報告です。この3月に卒業した学年の3位までと、今までの歴代の記録を紹介します。英語図書の貸出記録も2011年度からの3年間分だけですが報告します。  
2014年3月 卒業生 日本語図書最多貸出記録(6年間在籍)

1位: 木村 郁美さん 484冊 (在籍3年間のみ!)  
英語も入れると、495冊

2位: 趙 民秀くん 401冊 久々の上位男子!

3位: 谷 春葉さん 387冊

ちなみに、卒業生の英語図書最多貸出記録(過去3年分のみ)

1位: 岩澤直美さん 25冊

2位: 五井春香さん 24冊

今までの歴代の記録を紹介します。

1997～2014年歴代卒業生 日本語図書最多貸出記録 12位まで  
6年在籍

1位: 2002年 刺賀蘭理さん 1043冊  
(留学のため、5年間のみの在籍!)

2位: 2006年 馬場宏高くん 979冊

3位: 2012年 本田そにあさん 649冊

4位: 2014年 木村郁美さん 484冊  
(高校3年間のみ在籍! その意味では歴代3位かも)

5位: 2013年 山澤春菜さん 460冊

6位: 2002年 新井隼子さん 445冊

7位: 2012年 垣内穂佐奈さん 440冊  
(中学3年間のみ在籍! その意味では歴代4位かも)

8位: 2014年 趙 民秀くん 401冊

9位: 2014年 谷 春葉さん 387冊

10位: 1998年 沼田貴範くん 376冊

11位: 2011年 小縣 郁さん 350冊

12位: 2003年 角田 瞳さん 346冊

残念ながら、英語図書の貸出記録は2011年度からしかありませんが、順次、紹介していきます。英語ならたくさん借りている、読みたい本がない、など、いろんな意味で簡単には誰が一番とは言えないので、一つの記録としてみてください。新入生の皆さんもたくさん借りて、この記録を追い越してみよう!

### \* 蔵書点検報告

昨年度末、皆さんの理解と協力を得て、3月12日から14日の3日間に蔵書点検をしました。4年目となった英語図書の点検もすべて、無事終わることができました。

今年は、非常勤の先生1名が1日手伝ってくださったのと同時に、のべ27名の生徒がボランティアで汗を流してくれました。内訳は、昨年度7年9名、8年6名、9年5名、10年4名、11年3名で、男子3名女子24名。中学生が中心になってがんばりました。

比較的人数が少なかったのですが、以降の作業ではリピーターの生徒を中心に、初めて参加した生徒や7年生も全員がとても良く働いてくれました。例年の1日の仕事量の倍、働いた人もいます。おかげで、約37,300冊の開架日本語図書、約29,900冊の英



語図書等のデータを全て入力し、日英の書架をきれいに整理、掃除を完了して。4月には、きちんと整った本棚で新学年を迎えることが出来ました。本当にありがとうございます。

その結果、今年の行方不明の日本語図書が16冊になることが判明しました。また、この1年で14冊の本が見つかりました。学年途中の大掃除のあとにも、よくこうして本が出てくるがあります。図書館のバーコードの付いている本が回りのどこかに置きっ放しになっていませんか? リストを見て、何らかの心当たりのある方、教室の片隅などどこかで迷子の本を見かけた方は、ぜひ、ご連絡ください! 1冊でも迷子が戻ってきてくれるとうれしいです。

### <夏休みの長期貸出>

6月13日以降は、生徒の返却期限は8月28日(授業開始日26日の翌々日)になります。貸出冊数は、通常は日英各6冊ずつですが、もっと借りたい人はスタッフに申し出てもらえば何冊でも借りられます。ただし、ちゃんと期限内に学校に持ってこられる冊数にしてください。なお、開館予定にあるように、図書館は、春学期最終日の前日は4時30分に、当日は昼12時で閉館しますので、貸出はお早めに!

### <夏の開館予定>

|                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| ～6/25(水)        | 通常開館                   |
| 6/26(木)         | 開館 8:00～4:30pm         |
| 6/27(金)         | 開館 8:00～12:00am        |
| 6/28(土)～8/21(木) | 閉館(SIS生のための夏休みの開館を検討中) |
| 8/22(金)～25(月)   | 開館 9:00am～4:00pm 新学期準備 |
| 8/26(火)～        | 通常開館 授業開始              |

### <行方不明の日本語図書リスト>

2013年度不明分 16タイトル ¥43,478

日本史七つの謎 松本 清張 他著 講談社 210.04 マツモ ¥1,500

国際連合 (世界地理大百科事典 1) 平野 健一郎 監修 朝倉書店 319.9 ヒラノ ¥25,500

中学教師の胸のうち 徹底討論 (岩波ブックレット no. 469) NHK少年少女プロジェクト 編 岩波書店 376.3 エヌエ ¥440

少女反抗期 どうする? 理由なき反抗 尾木直樹 著 学陽書房 376.3 オキ ¥1,400  
人種とスポーツ 黒人は本当に「速く」「強い」のか (中公新書) 川島 浩平 著 中央公論新社 780.18 カワシ ¥840

晩年の井上靖「孔子」への道 山川 泰夫 著 求龍堂 910.268 イノウ ¥1,500

作家の自伝 18 井上靖 (シリーズ・人間図書館) 日本図書センター 910.268 イノウ ¥2,678

触れもせで 向田邦子との二十年 久世 光彦 著 講談社 910.268 ムコウ ¥1,200

黄色い目の魚 佐藤 多佳子 著 全国学校図書館協議会 913.6 サトウ ¥190

高瀬舟 (集団読書テキスト B2) 森 陽外 著 全国学校図書館協議会 913.6 モリ ¥160

(次ページ★に続く)



## Two Schools Together 中等部生徒会レポート MS Student Council Reports

# Mini-Sports Day

佐藤 迅、Hideki Kondo

SIS中等部生徒会会長、OIS MS Student Council President

2月26日(水)LHRに、OIS 6～8年生とSIS 7～8年生が集い、ハウス単位で“Capture the Flag(旗取り)”をしました。これは相手チームの陣地内にある旗を取ると点数が入るしくみのゲームです。一見すると単純なゲームに見えますが、実際はチーム内で攻撃の仕方や防衛方法について相談しながら進める頭脳ゲームです。生徒会も初めは簡単に考えていましたが、各教室に説明に行くと、生徒ごとに細かくルールが違って、予想外に大変な仕事であることがわかりました。生徒会メンバーは、調整を繰り返し、ようやく当日を迎えることができました。また寒い時期の行事だったため、風邪の生徒やゲームをしたくない生徒がでるのはないか、またやってみるとミスを連発するのではないかと不安でしたが、いざゲームが始まると、どのハウスも楽しんでゲームに参加し、中には生徒会に手を貸してくれる生徒やハウスを盛り上げようとする人もいて、心配が吹っ飛びました。特にOISとSIS両方の8年生が協力的でとても助かりました。

生徒会が何かを企画するときはいつもこういった具合で、おぼけ屋敷にしても、クリスマス映画鑑賞会にしても、いつもうまくいかなかったらどうしようと心配ばかりしていますが、結局、参加してくれる皆に背中を押され、成功することができました。中等部の皆さ



んには、感謝せずにはいられません。

1年間ご協力ありがとうございました。6月11日に中等部生徒会選挙が行われ、2013年度のメンバーは引退します。今年初めてOIS中等部とSIS中等部と一緒に生徒会を構成し、不安ながらもできる限りのことに挑戦してきました。行き届かないところいろいろあったと思いますが、わずかでも皆さんの良い思い出になっていたら光栄です。

### (★前ページの続き)

たけしくん、ハイ! (新潮文庫 ひー11-7) ビートたけし 著 新潮社 914.6 ヒ  
¥514

風になったお母さん (集団読書テキスト B21) 野坂 昭如 著 全国学校図書館協  
議会 916.4 ノカ ¥160

(ザ・)ギバー 記憶を伝える者 (ユースセレクション) ロイス・ローリー 作 講談社  
933 ロ ¥1,426

ぐっすりメーメさん夜のおさんぽ? マウリ・クンナス 作 猫の言葉社 E クナ  
¥1,800

チキン・サンデー パトリシア・ボラッコ 作 アスラン書房 E ホラ ¥1,545  
英語難関校受験シリーズ 第2版CD1枚 早稲田国際教養の英語 トフルゼミナ  
ール英語教育所 テイエス企画 ¥2,625

2013年度紛失分 10冊 ¥12,124

ブッダ 第8巻 手塚 治虫 潮出版社 182.8 テッカ 8 ¥1,111

孤独を生きぬくキリスト教のメッセージ インドロ・リバス 講談社 194 リハ ¥600

それでも、日本人は「戦争」を選んだ 加藤 陽子 朝日出版社 210.6 カウ ¥1,700  
騙される人騙されない人 (かもがわCブックス 4) 安斎 育郎 かもがわ出版 326.3  
アンサ ¥1,785

巨大文明の謎を解き明かす 桜井邦朋 PHP研究所 440.2 サクラ ¥1,250

30日間マクドナルド生活 自分の体で実験してみました マツモトケイジ 祥伝社  
498.5 マツモ ¥1,260

歩きながら考えよう 建築も、人生も 安藤 忠雄 PHP研究所 523.1 アント ¥1,100

あの日。ブルームーンに。(teen's best) 宮下 恵菜 ポプラ社 913.6 ミヤシ ¥1,470

少年野球 打撃編 王 貞治 集英社 E 783.7 オウ ¥1,260

オペラ座の怪人(フォア文庫B299) G. ルルー 金の星社 E 953 ルル ¥588

2012年度不明分 0冊 ¥0

2012年度紛失分 3冊 ¥2,635 (紛失分4冊中、1冊発見)

怪奇館へようこそ(ちくま文庫) 水木しげる著 筑摩書房 913.6 ミスキ 6 ¥470

読まれなかった手紙(くもんの児童文学) 杉田 秀子 くもん出版 E 913.6 スキ  
¥1,365

地下室にねむれ(グースバンプス 7) R.L.スタイン著 岩崎書店 E 933 スタイ 7

¥800

2011年度不明分 5冊 ¥8,632 (不明分13冊中、8冊発見)

はじめての刑法入門 (ちくまプリマー新書) 谷岡 一郎 著 筑摩書房 326 タニ  
オ ¥780

宇宙の進化がわかる事典 ビッグバンから137億年 梶 秀彦 監修 PHP研究所  
443.9 アカ ¥2,800

カラー図解でわかるクルマのハイテク (サイエンス・アイ新書) 高根 英幸 著 ソフト  
バンククリエイティブ 537 タカネ ¥952

じごくのラーメンや 荻田 澄子 作 教育画劇 E カンタ ¥1,100

中検準1級・1級問題集 2006年版 中検研究会 編 光生館 MF 820.7 チュウ  
1・1/06 ¥3,000

2011年度紛失分 5冊 ¥6,385

江戸奥女中物語 (講談社現代新書 1565) 畑尚子 著 講談社 210.5 ハタ  
¥680

ビルマ (暮らしがわかるアジア読本) 田村克己 編 河出書房新社 302.238 タムラ  
¥2,000

平和なイラク、再び 浜砂順一 著 大村書店 302.281 ハマス ¥1,470

黒い聖母と悪魔の謎 (講談社現代新書 1411) 馬杉宗夫 著 講談社 702.099 ウ  
マス ¥660

詳解バスケットボールのルールと審判法 2007 阿部 哲也 著 大修館書店 783.1  
ショウ 2007 ¥1,575

2010年度不明分 5冊 ¥5,200 (不明分9冊中、4冊発見)

空港で働く (なるにはbooks 補巻 1) ベリかん社 366.29 ナルニ ホ-1 1200

現代っ子の性 こんなときどうする? 主婦と生活社 367.9 キタム 1250

おバカさん (角川文庫) 角川書店 913.6 エント 380

人形の家 (岩波少年文庫) 岩波書店 E 933 コツテ 570

名前といわれ日本の野鳥図鑑 1 野山の鳥 偕成社 R 488.03 ナマエ 1 1800

2010年度紛失分 2冊 ¥3,200

440:ニ外 星座物語 (ニュートン別冊シリーズ) 教育社 ¥1,900

440.76:コハヤ プラネタリウムへ行きたくなる本 リバティ書房 ¥1,300

この他、2004年度紛失の7冊中1冊も発見しました。

## Two Schools Together

# A tribute from the 8th Grade Art shared program SOIS

Jennifer Henbest de Calvillo

*Visual Art*

Every winter trimester grade 8 artists work together creating what we fondly call the 8th grade collaborative trimester. The shared program is a great way for SIS and OIS students to work together creatively, speaking in English and Japanese. Each Winter trimester, the visual art teachers actually design projects around contemporary artists that enable students to work on large-scale art projects that take a 100 students at a time to execute. The program is designed to teach not only basic drawing and sculpture skills but it is also designed to answer bigger and deeper questions about art and the world around us.

This year's main large-scale collaborative work was designed around the team artists Christo. Christo made an umbrella project in the USA and Japan in the 1990s and Mrs. Henbest and Mr. Meadows designed an umbrella project inspired by Christos' sculptural installation, but enhanced it with patterns on balance and symmetry. We hope you enjoy them in the genkan at this moment. In the past, the SOIS 8th grade has also designed projects around artists such as Anish Kapoor, Osamu Tezuka, Jeff Koons, and the Starn Twins.

None of this would have been possible in the 8th grade without the leadership of Chris Meadows. Mr. Meadows is now going back to Australia. Since he came a few years ago, the art department has grown and developed in many good ways. But it has been especially nice to team teach with Chris Meadows. He is one of the most accomplished MYP teachers and scene painters this school has even seen. It has been a real pleasure to work with him over these short years. The 8th grade students have been so lucky to have him as a teacher. Mrs. Henbest



has also been so thankful to work with such a professional, organized, and creative person. Of course, Mr. Evans and Ms. Stephens worked collaboratively in the 7th grade program and they will also really be missed because next year they are also leaving. It will be a whole new year working collaboratively in the SOIS Shared Program. We will miss them.



*At the Minpaku and Mingei Museum our last trip together with Mr. Meadows. The shared program will really miss you! Thank you for all your hard work.*



# SIS マレーシアに集まれーしあ！

## 旅行委員長の役割を終えて得たもの

十合 権

SIS12年

自分が旅行委員長に選ばれた時、私ならできるという自信があった。しかしこの自信はすぐに打ちひしがれることとなった。第一回のミーティングが始まって間もなく、自分が会議進行に明確なビジョンを持っていないことに気がついた。会議中に出される様々な意見を把握し、整理して、話し合いを進めることがとても困難に思えた。そこで見かねた先生からヒントを貰った。それは、事前に会議進行するにあたって自分が言うセリフや会議の着地点を毎回紙に書き示してから行くというものだった。そうすることによって私は、自分の中であらかじめその日の会議に対する明確なビジョンを持って臨むことができるようになった。

会議の進行にも慣れ、マレーシアでの旅程も具体化し、あとはグループ決めなどの細部を決めていく段になって、私は再び問題に直面した。それはホテルの部屋決めの方法を話し合っていたときのことで。私は何の対策もなしに自由に部屋決めを行うことに反対だった。先輩からホテルの部屋決めの方法を誤ると問題が必ず起こると注意されていたからである。しかし私はこの会議の途中に冷静さを欠き、感情論で委員のメンバーと論じてしまった。当然委員のメンバーは納得できなかっただろう。それでも委員のメンバーは私の話に耳を傾け尊重してくれた。嬉しかったが、同時に不甲斐ないと思った。私はそれから委員のメンバーと一緒に旅行を作り上げていることを再確認し、協力し合うことの大切さを肝に銘じた。

旅行当日、私は楽しもうという気持ちでいた。そして何より、学年みんなが楽しんでくれることを願っていた。半年間に渡る準備期間はまさに学年みんなが楽しめる旅行を作ることにあっただから。幸い病人や怪我人が出ることもなく、順調に旅行は進行した。そして報告会兼お楽しみ会の夜、学年全員の笑顔を見ることができた。会の最後に、思わぬ形で学年の皆から旅行委員への感謝を表した色紙を貰った。私はそれまで自分の苦労や委員のメンバーと準備してきた時間を思いだし涙が止まらなかった。

私は半年間、旅行委員長として学年旅行の企画にかかわった。だが、失敗ばかり重ねた不甲斐のない委員長であった。本当に委員のメンバーや副委員長には迷惑ばかりかけた。しかし、「楽しい旅行だった」と皆に言われる度に、少なくとも自分たちの努力は報われたと思えた。支えてくれたメンバーや先生方に本当に感謝したいと思えるのも、良い学年旅行だったからこそだと思う。苦悩と達成が私の掛け替えのない経験である。



## 一層深まった学年の絆

田中理紗子

SIS12年

「マレーシアに集まれーしあ！」の合言葉のもと、私たち75人は3月14日から18日まで、異文化が共存する国マレーシアに「集まり」ました。飛行機から降りて一番に感じたのはその「暑さ」でした。予想していたとは言え、湿気が多く、ムワッとしていて、日本の暑さとはまた違う暑さだったからです。一見これはマイナスのことように思えますが、そんなことさえ私にとってはワクワクするもので、日本ではできない体験に心を躍らせていました。



2日目のクアラルンプール市内観光で王宮を訪れると、ちょうど衛兵交代が行われており、王宮の前に10頭ほどの馬と演奏樂團がいました。日本人の私にとって、日常生活の中で王制を身近に感じることはほとんどないため、とても興味深い光景でした。また、その次に行ったブルーモスクでは、今までにない経験することができました。髪や肌を隠すための青色の布を羽織ってモスクに入ると、一心にお祈りをする人の姿が目に入りました。私たちが日本の神社に行ってお祈りするのは違って、イスラム教徒の人々は神の存在を心の底から信じ、崇拝しているのだと身にしみて感じました。最終日に訪れたマラッカは、マレーシアの異文化を象徴する町並みで、ヨーロッパと中国の文化が融合していました。これらの場所から、マレーシア独自の歴史や文化に思いを馳せることができました。

暖かい心をもった人とのたくさんの出会いもありました。3日目は午前午後ともに、各自が選んだプログラムに参加する「体験学習日」でした。午前は、「現地学生との交流」「現地の日本企業訪問」「孤児院訪問」の3つのいずれかに参加するのですが、私は「孤児院訪問」を選びました。訪れた孤児院では、5歳以下の小さな子どもたち十数人と、折り紙やおもちゃなどを使って交流しました。複雑な背景を抱えた子どもたちでしたが、彼らの屈託のない笑顔にとっても癒されました。それと同時に、なぜこんなかわいい子どもたちが孤児院にいるのだらうという切ない気持ちも湧きました。午後は「バティック」「ピューター」「マレーシア料理」のいずれかを選んで実際に手作りに挑戦してみる文化体験教室でした。私が参加した「マレーシア料理」では、マレーシアのお母さん方にいくつかのマレーシア料理を教えてもらいました。マレー語で教えてもらい、質問があれば日本語ですというお互いに言葉は通じない状況でしたが、身振り手振りでコミュニケーションを取ることができました。数時間の滞在でしたが、家族のように親しくなることができ、別れるときは本当に悲しかったです。

そして、最後の夜のお楽しみ会では、事前調査に基づいて作成した学年一人ひとりのイメージビデオと、「残りのSIS生活1年間みんなでがんばろう」というメッセージを込めた2種類の動画を鑑賞しました。そして、1年後には受験を乗り越えて笑顔で卒業しよう、学年の絆をより一層深めることができたと思います。

私は旅行委員の一員として学年旅行の企画と運営にかかわってきましたが、このように、実際に行かなければできないことを体験し、学ぶことのできる旅行になったと思います。また、この旅行を通して、この学年の優しさや良さも改めて感じました。素晴らしい仲間と共に最高の旅行に行けたことをとても嬉しく思います。



# SIS 第21期高等部卒業生78名巣立つ



## 多彩な進路

### 2014年3月卒業生の進路

| 区分(地域・学部系統・領域等) | 人数       | 所属(学科・学校等)  |
|-----------------|----------|---|
| 海外              | カナダ      | 3 Mount Allison / Trinity Western University / Toronto                  |
| 人文科学            | 文学・語学    | 6 英米語(京都外国語) / 英文(神戸女学院)(慶應義塾) / 国際英語(梅花女子)<br>日本文学・日本語(関西学院)学芸(大阪樟蔭女子) |
|                 | 哲学・心理学   | 1 心理(関西学院)  |
|                 | 文化学      | 1 地理学地域文化学(関西学院)  |
| 社会科学            | 法学       | 3 法(関西学院2)(同志社)   |
|                 | 政治学      | 2 政治(関西学院)(早稲田)   |
|                 | 経済学      | 5 (関西学院4)(神戸)   |
|                 | 商学・経営学   | 9 商(関西学院4) / 経営(甲南) / 国際経営(立教)(APU3)                                    |
|                 | 社会学      | 5 社会(関西学院5)   |
| 総合・学際           | 社会科学系統学際 | 3 社会起業(関西学院) / アジア太平洋(APU) / マネジメント創造(甲南)                               |
|                 | 国際学      | 9 国際(関西学院7) / 国際関係(立命館) / 現代国際(名古屋外国語)                                  |
|                 | 教養学      | 5 教養(国際教養) / 国際教養(上智2)(早稲田2)  |
|                 | 総合政策学    | 4 総合政策(関西学院4)   |
|                 | 人間科学     | 1 人間科学(関西学院)  |
| 理工学             | 総合情報     | 3 (関西) / 環境情報(慶應義塾) / 情報メディア(大阪工業)                                      |
|                 | 理学系統学際   | 1 化学(関西学院)  |
| 理工学             | 工学系統学際   | 2 都市システム(関西)航空宇宙(東海)  |
| 生物・農学           | 海洋       | 1 海洋(東海)  |
| 医療・保健           | 薬学       | 1 薬学(立命館)   |
| 教育              | 教育学      | 2 初等教育(関西学院2)   |
| 芸術              | 工芸・デザイン  | 1 デザイン(京都精華)  |
| 資格・技能           | マンガ      | 2 マンガ(京都精華) / 製菓(辻製菓)   |
| 未定              | 大学進学予定   | 8   |
| 全卒業生の合計         |          | 78  |

### 過年度生の進路

| 区分(地域・学部系統・領域等) | 人数   | 所属(学科・学校等)                          |
|-----------------|------|-------------------------------------|
| 文科系             | 国際系  | 2 国際関係(立命館) / 国際地域(東洋)              |
|                 | 外国語  | 1 英語キャリア(関西外大)                      |
|                 | 教養   | 1 (国際基督教)                           |
|                 | 経営   | 1 (立命館)                             |
| 理科系             | 医学   | 1 (大阪)                              |
|                 | 看護学  | 1 (新見公立)                            |
|                 | 工学系  | 3 (大阪) / 機械工学(立命館) / 環境建築(滋賀県立)     |
|                 | 人間科学 | 1 人間科学(早稲田)                         |
| 海外              | 芸術   | 1 Parsons The New School for Design |
| 過年度生の合計         |      | 12                                  |

◆学科まで判明していない場合、学部で分類しています。

◆2人以上の場合は学校名のあとに人数を示しています。







## 過去3年間大学等合格状況一覧

卒業生徒数:76名(2011年度)+92名(2012年度)+78名(2013年度)

| 所在地     | 学校名                                   | 2011   | 2012   | 2013   | 計      |
|---------|---------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 国公立大学   |                                       |        |        |        |        |
| 秋田      | 国際教養大学                                | 1      | 1      | 1      | 3      |
| 茨城      | 筑波大学                                  |        | 1      |        | 1      |
| 京都      | 京都大学                                  | 1      |        |        | 1      |
| 京都      | 京都工芸繊維大学                              | 1      |        |        | 1      |
| 大阪      | 大阪大学                                  | 2      | 2      | 2      | 6      |
| 大阪      | 大阪府立大学                                | 2      |        |        | 2      |
| 大阪      | 大阪市立大学                                |        | 2      |        | 2      |
| 兵庫      | 神戸大学                                  |        | 1      | 1      | 2      |
| 兵庫      | 兵庫県立大学                                |        | 2      |        | 2      |
| 兵庫      | 神戸市立外国語大学                             |        | 1      |        | 1      |
| 和歌山     | 滋賀県立大学                                |        |        | 1      | 1      |
| 鳥取      | 鳥取大学                                  |        | 1      |        | 1      |
| 岡山      | 新見公立大学                                |        |        | 1      | 1      |
|         | 計                                     | 7      | 11     | 6      | 24     |
| 私立大学    |                                       |        |        |        |        |
| 北海道     | 酪農学園大学                                | 1      |        |        | 1      |
| 北海道     | 苫小牧駒澤大学                               |        |        | 1      | 1      |
| 東京      | 亜細亜大学                                 |        | 1      |        | 1      |
| 東京      | 青山学院大学                                |        | 1      |        | 1      |
| 東京      | 慶應義塾大学                                | 2      | 5      | 2      | 9      |
| 東京      | 国際基督教大学                               | 1      | 1      | 1      | 3      |
| 東京      | 上智大学                                  | 9(1)   | 4(1)   | 2      | 15(2)  |
| 東京      | 東洋大学                                  |        |        | 1      | 1      |
| 東京      | 中央大学                                  | 1      |        |        | 1      |
| 東京      | 東京理科大学                                | 1      | 1      |        | 2      |
| 東京      | 法政大学                                  |        | 1      |        | 1      |
| 東京      | 東海大学                                  |        |        | 2      | 2      |
| 東京      | 明治大学                                  | 1      |        |        | 1      |
| 東京      | 専修大学                                  |        | 1      |        | 1      |
| 東京      | 立教大学                                  | 1      |        | 1      | 2      |
| 東京      | 早稲田大学                                 | 5      | 3      | 4      | 12     |
| 東京      | 国立音楽大学                                |        | 1      |        | 1      |
| 石川      | 金沢工業大学                                |        |        | 1      | 1      |
| 愛知      | 名古屋外国語大学                              |        |        | 1      | 1      |
| 滋賀      | 長浜バイオ大学                               | 1      | 1      |        | 2      |
| 京都      | 京都外国語大学                               | 3      | 2      | 1      | 6      |
| 京都      | 京都女子大学                                | 1      | 1      | 1      | 3      |
| 京都      | 京都精華大学                                | 1      |        | 2      | 3      |
| 京都      | 京都造形芸術大学                              |        | 1      |        | 1      |
| 京都      | 同志社大学                                 |        | 6      | 7      | 13     |
| 京都      | 同志社女子大学                               | 2      | 1      |        | 3      |
| 京都      | 平安女学院大学                               |        | 1      |        | 1      |
| 京都      | 立命館大学                                 | 3(1)   | 10(1)  | 14     | 27(2)  |
| 京都      | 龍谷大学                                  |        | 1(1)   |        | 1(1)   |
| 大阪      | 追手門学院大学                               |        | 1      |        | 1      |
| 大阪      | 大阪電気通信大学                              |        | 1      |        | 1      |
| 大阪      | 大阪経済法科大学                              | 1      | 1      |        | 2      |
| 大阪      | 大阪薬科大学                                |        | 2      |        | 2      |
| 大阪      | 阪南大学                                  |        | 5      |        | 5      |
| 大阪      | 摂南大学                                  |        |        | 3      | 3      |
| 大阪      | 大阪樟蔭女子大学                              | 1      |        | 1(1)   | 2(1)   |
| 大阪      | 関西外国語大学                               | 7      | 4      | 1      | 12     |
| 大阪      | 関西大学                                  | 5      | 4      | 3      | 12     |
| 大阪      | 近畿大学                                  | 3      | 5      | 3      | 11     |
| 大阪      | 梅花女子大学                                |        |        | 1      | 1      |
| 大阪      | 大阪工業大学                                |        |        | 1      | 1      |
| 兵庫      | 桃山学院大学                                | 1      | 2      |        | 3      |
| 兵庫      | 関西学院大学                                | 31(26) | 28(26) | 35(33) | 94(85) |
| 兵庫      | 甲南大学                                  | 1(1)   |        | 2      | 3(1)   |
| 兵庫      | 甲南女子大学                                | 1      |        |        | 1      |
| 兵庫      | 兵庫医科大学                                |        | 1      |        | 1      |
| 兵庫      | 神戸薬科大学                                |        | 1      |        | 1      |
| 兵庫      | 神戸学院大学                                |        | 1      | 1      | 2      |
| 兵庫      | 神戸女子大学                                |        | 1      |        | 1      |
| 兵庫      | 武庫川女子大学                               |        | 1      |        | 1      |
| 大分      | 立命館アジア太平洋大学                           | 1      | 5(2)   | 4(2)   | 10(4)  |
| 短期大学    |                                       |        |        |        |        |
| 大阪      | 関西外国語大学短期大学部                          | 1      | 1      |        | 2      |
| 専門学校    |                                       |        |        |        |        |
| 京都      | 京都コンピュータ学院                            | 1      |        |        | 1      |
| 大阪      | 大原専門学校                                |        | 1      |        | 1      |
| 大阪      | 辻調理専門学校                               |        |        | 1      | 1      |
| 海外の大学   |                                       |        |        |        |        |
| カナダ     | Mount Allison University              | (1)    | (2)    | (1)    | 4      |
| カナダ     | Trinity Western University            |        | 1      | 1      | 2      |
| カナダ     | Toronto University                    |        |        | 1      | 1      |
| アメリカ    | Parsons The New School for Design     |        |        | 1      | 1      |
| アメリカ    | Bryn Mawr College                     |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | University of Southern California     |        | 2      |        | 2      |
| アメリカ    | State University of NY                |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | Wellesley College                     |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | University of California, Los Angeles |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | Smith College                         |        | 2      |        | 2      |
| アメリカ    | Lake Forest College                   |        | 2      |        | 2      |
| アメリカ    | Fashion Institute of Design and Mer.  |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | Florida Institute of Technology       |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | Loyola Marymount University           |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | University of Hawaii at Manoa         |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | DePauw University                     |        | 1      |        | 1      |
| アメリカ    | American University                   | 1      |        |        | 1      |
| アメリカ    | University of Michigan                | 1      |        |        | 1      |
| アメリカ    | Boston University                     | 1      | 2      |        | 3      |
| アメリカ    | Northwestern University               | 1      |        |        | 1      |
| アメリカ    | Wesleyan University                   | 1      |        |        | 1      |
| アメリカ    | Colby College                         | 1      |        |        | 1      |
| アメリカ    | Green Mountain College                | 1      |        |        | 1      |
| オーストラリア | Sunshine Coast                        | 1      |        |        | 1      |
| オーストラリア | Sydney University                     | 1      |        |        | 1      |
| 韓国      | 西江大学                                  | 1      |        |        | 1      |

※合格人数は、過年度生(浪人)合格人数を含み、のべ人数(同一大学同一学部・学科に複数方式で合格しているものは1人に数える)

※内( )名は、指定・協定校推薦入試合格人数

※過年度(浪人)生で、不明・無回答もあり



# SIS 12か国語で宣誓

## SIS入学式



桜も見ごろを迎えた4月1日、第24回入学式が執り行われました。緊張の面持ちで入場した初々しい新入生たちは、保護者の方々、諸先生方、そして在校生に温かく迎えられ、ひとりひとりの紹介のときには堂々と笑顔で応えました。校長先生や代表の方々の祝辞を頂戴し、12か国語もんの宣誓を真摯に受け止め、SISの生徒としての、自覚を持つことができました。「初心忘るべからず」ということわざがあるように、入学式のときに抱いた気持ちを忘れずに学校生活を送ってくれることを祈っています。ご入学おめでとうございます。SISへようこそ！

(Student Reporter A)

### 生徒宣誓言語

日本語、フランス語、中国語、インドネシア語、ドイツ語、韓国語、アラビア語、ベトナム語、イタリア語、ヘブライ語、ロシア語、英語



## 中等部卒業式

3月12日にはSIS中等部の卒業式がシアターで行われました。校長先生から卒業証書を受け取った後には、思い思いのポーズをとるというSISらしいスタイルで盛り上がりました。午後はパフォーマンスを楽しんだ後、外部進学する友人との別れを惜しましました。





# SIS 卒業生、教育実習で奮闘

## 教育実習を通して

奥田絃巳

大阪大学理学部生物科学科4回  
生、2011年3月SIS卒業

5月7日から学園祭の5月24日まで、私はSISに教育実習生としてかえってきた。SISを卒業して3年、中庭や理科の教室に大きな変化があったものの、自由な校風、生徒の雰囲気は私が生徒だったころと変わりはない。むしろ、よりパワフルで行動力のある生徒が増えたのではないかと思った。Team Scienceという私が在籍していたころには無かった理科クラブが放課後活動していたり、研究関連の授業が増え、生徒たちが各々テーマを設定して研究していたり、学園祭の話し合いではまとまりがつかないくらいたくさんの意見が教室を飛び交ったり。より生き生きとした学校になっていた。

初日は緊張と、久しぶりのSISの雰囲気に飲まれ、「3週間、やっていけるだろうか」と不安ばかりが募ったが、生徒が笑顔であいさつしてくれ、他愛もない話をしてくれることで次第に不安は消えていった。

実際に授業をし始めたのは12日からだった。念入りに授業の準備をしてきたから大丈夫だと自信をもって初回の授業に臨んだ。初回の授業では時間が過不足することもなく、すべての内容を網羅できたので、個人的には満足していた。しかし、私は生徒の目線に立てていなかった。タンタンと授業をし、タンタンと問題を前で解いていく。いわゆる塾や進学校のような授業になってしまっていたのだ。この初回の授業で私の教育実習における大きいテーマが決まった。それは、生徒とのコミュニケーションを大事にすること、である。

初回の授業に関するフィードバックを受け、完全に自信喪失してしまった。しかし落ち込む間もなく2回目の授業はやってきた。足が震えたのを覚えている。生徒とのコミュニケーションをどうとっていいかわからなかったからだ。しかし、授業を繰り返すうちに、顔と名前が一致していき、少しずつコミュニケーションをとるのに慣れていった。生徒と作っていく授業、生徒の発言によって方向性や雰囲気かわる授業、生き物のような授業、こうした授業に少しずつ近づいていった。

科目が化学、ということもあり、生徒実験や演示実験など工夫がたくさんできる中、一番効いた工夫は生徒の名前を覚え、クラスとしてではなく、個人として生徒のことを知っていくことであった。授業前、授業後におしゃべりし、そうした時間で生徒と距離感は少しずつ縮まっていったように思う。

そして、最終日、学園祭。9-1のみんなが作り上げたゲームは想像を遥かに上回る出来で、正直時間が足りないのではないかと思っていたが、見事間に合わせた。しかもハイクオリティ、やはりパワフル！

9-1はたまに騒ぎすぎしてしまうかもしれないが、大事なときにはしっかりと前を向いて話を聞ける、主張を飛び交わし議論のできる、とてもいいクラスだと感じた。みんなと一緒に勉強できて、とっ



ても幸せ！

9-1のみなさん、化学基礎を受講していた生徒のみなさん、担当してくださった間島先生、理科室の先生方、授業見学させていただいた先生方、研究授業を評価してくださった先生方、3週間、ほんとうにありがとうございました。



## SISは昔のままだった

本廣定也

桃山学院大学国際教養学部卒  
科目等履修生

関西学院千里国際高等部がまだ千里国際学園と呼ばれていた頃、自分がこの学校を卒業したのは約6年前の事である。当時は進学した後、この学校に戻り勉強する事など毛頭考えていなかった。しかしどのような巡り合わせか、またこの学校に戻ってきて、指導教諭のダッタ先生のもと、社会科・日本史を当時とは別の立場から勉強することになり、3週間お世話になった。3週間とは一見すると長く、しかし体験すると実に短い時間である。実習前は途方もなく長く見えていたが、実習が始まると、あっという間の3週間だった。

実習が始まる前までの心配事は、上手く出来るかとか、生徒に受け入れられるかとかではなく、SISは自分がいた頃のSISのままなのだろうかと言う一点だった。しかしその懸念は初日に吹き飛んだ。SISは昔のままだった。好奇心旺盛で積極的な授業態度、和気藹々とした校舎、良くも悪くも個性的な生徒たち(と先生方)。自分がいたころとは生徒の顔ぶれは違えど、殆ど変わってなかった。

SISが昔のままのSISであると分かったからには、やりたいことは山ほどあった。しかしあくまで自分は教師の立場で此処に居るのだと、生徒に戻りそうになる自分にブレーキをかけるのに必死で、最初の1週間は無愛想な実習生だった。

授業も「本廣先生の歴史雑学講演会」が延々と繰り返られる状況で、前回の復習との名目で毎回クイズ大会を開き、雑談が多すぎ予定が大幅に遅れ、教える内容を忘れたのを誤魔化すために突拍子もないたとえ話をはじめると、好き勝手な、よく言えば自由な授業を行っていた。しかし生徒たちはその授業(?)に積極的に参加し、そしてダッタ先生もまた、何かを強制するのではなく自由にやらせてくれた。一般的な高校では指摘されるであろう行動であっても、間違いでない限りはこの学校では自由にさせてくれる。その自由こそがこの学校の特色であり、伝統であり、誇れる点である。

自分はこの教育実習を経て、改めて自由な校風と言うものを体験した。自由な校風と言うのは、生徒たちの普段の行動が関係する。これからも自由な校風を守れるよう、生徒たちは5つのリスペクトを守り続け、SISはSISのままであり続けて欲しいと願うと同時に、そのような自由な学校生活を思い出させてくれたSISに心から感謝したい。3週間ありがとうございました。

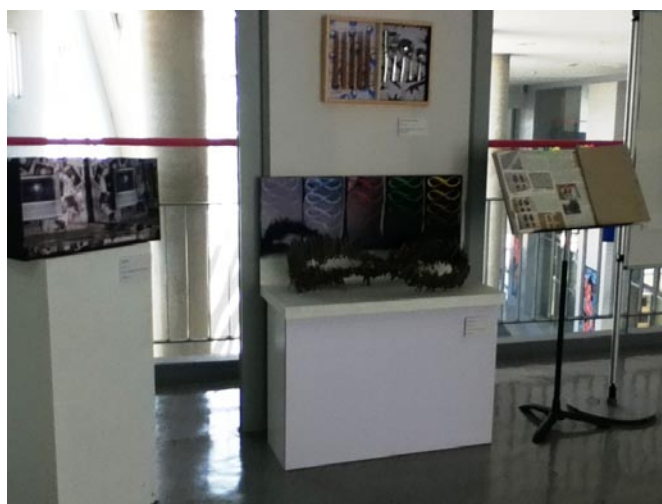
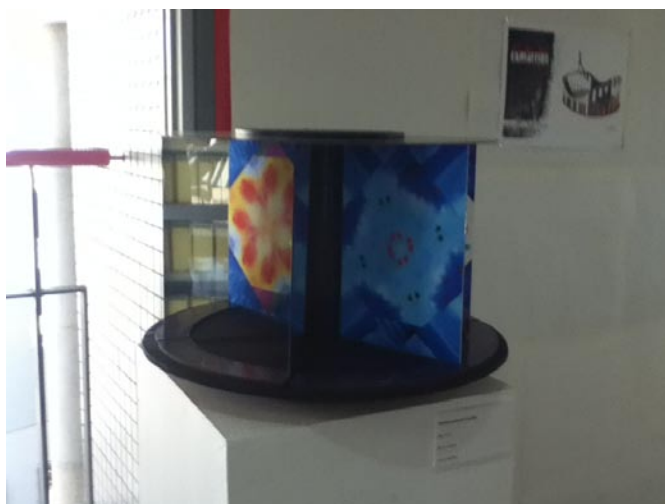
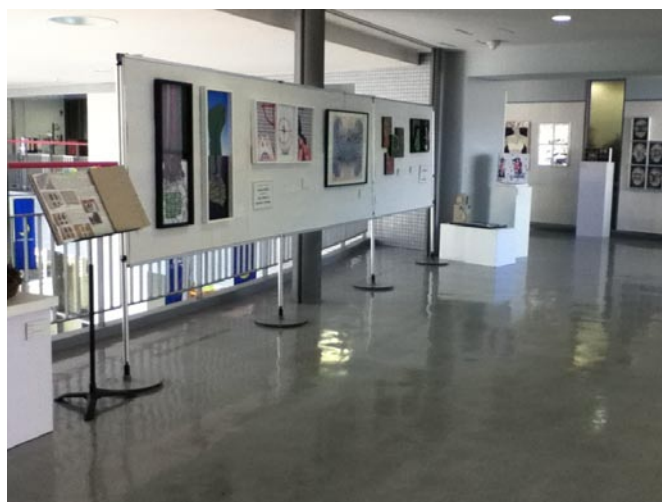
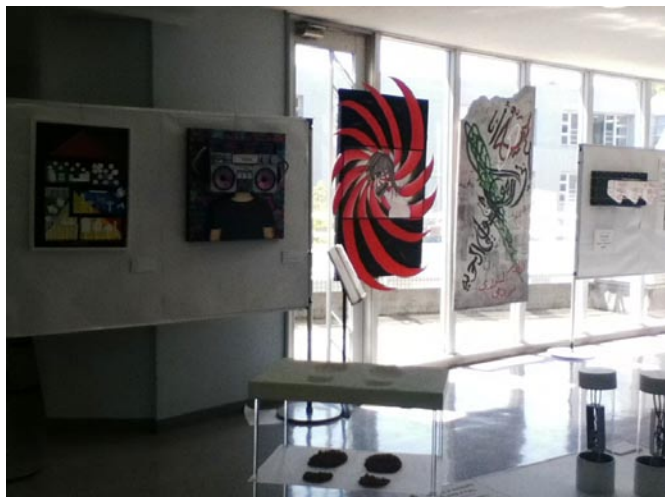


## OIS IB Art Exhibition

The grade 12 visual arts students held an exhibition of their studio work along the 2nd floor hallway overlooking the genkan from Friday 11th April to Wednesday April 16th. They discussed their work on April 11th after school.

4/11から4/16まで2階のビジネスオフィスの近くの階段ホールでOIS IB Artの展示が行われました。作品それぞれの個性が素晴らしく、思わず見入ってしまうようなものばかりでした。4/11の放課後にはそれぞれの作品を制作した生徒が作品の近くに立ち、見に来る人の質問に答えるイベントもありました。こうした身近な場所に作品が飾られると気軽に作品を観て感動できるので、これからもより多くの作品が展示されることを期待します。

(Student Reporter M)





# ■ 学年だより Grade Reports

## ●OIS Grade 4

### OIS Grade 4 Explores Biodiversity at the Minoh Mountain and Visitor Center

Lora Vimont

OIS Grade 4 Teacher



On Wednesday, April 16th, the OIS Grade 4 class journeyed to the Minoh Mountain as part of their inquiry into Sharing the Planet, with its central idea: Biodiversity relies on maintaining the interdependent balance of organisms within systems. The class was able to have a first-hand look at the biodiversity in the mountain and the ways that the people at the visitor center work to maintain nature's balance. Upon arrival at the park facility, the class was treated to a 30 minute informative PowerPoint presentation about the park's wildlife and operations, given by one of the park's many highly knowledgeable workers. The students had plenty of opportunity for some Q & A and asked many interesting questions! After this, the class moved into the visitor center armed with digital cameras and iPads for some personal exploration, note-taking and photos of the many plants and animals on display. Lunch outdoors also proved to be a learning experience for our class, as many of the students said it was their first time to know what it is really like to eat out in a wild area with lots and lots of bugs flying around! Following lunch, the students were split up into small groups and were given a guided tour of the nearby paths by park volunteers. Upon our return back to the visitor center, our hosts ended our visit with a fun craft activity that showed all of us how to make some interesting art from natural materials found on the mountain. It was a wonderful experience for all!

## ●SIS Grade 7 中部部1年生

### 負の数×負の数=正の数

### a negative times a negative equals a positive

馬場博史

SIS7年担任、数学科

久しぶりに中1の数学を担当し、正負の数を教えました。英語で

正の数はPositive Number、負の数はNegative Numberですが、正負の数はDirected Numberといいます。日本語に直訳はありませんが、「向きのある数」という意味です。

ところで負の数×負の数 a negative times a negative がなぜ正の数になるのかということは、数学の得意だった『赤と黒』の作家スタンダールも、自叙伝の中でその悩みを書いていたそうです(遠山啓著『数学入門(上)』より)。借金を負の数で表すと、借金×借金=利益になるなんておかしな話ですが、もともと金額と金額をかけること自体が意味のないことです。教科書は、逆向きの移動を負の速度、過去を負の時間としてうまく説明しています。東に向かって時速4kmで歩くと2時間後には東に8kmの地点にいます。西に向かって時速4kmで歩くと2時間前にはやはり東へ8kmの地点にいます。

SISの生徒は授業中、真面目に一生懸命取り組んでくれます。一緒に声をそろえて答を言ってくださいというと、みんな素直に答えてくれます。ホワイトボードに解答を書いてくださいというと、ひとりひとり丁寧に書いてくれます。理由を説明してくださいというと、何人も手が上がります。先日は動画サイトで見つけた"Negative Number Song"を一緒に歌いました。

♪ a negative times a negative equals a positive

♪ a positive times a positive equals a positive

♪ a positive times a negative equals a negative

♪ a negative times a positive equals a negative

曲に合わせてnegative(-), positive(+), equals(=)の記号を腕だけで表します。恥ずかしがりながらもみんな揃って手振りをしてくれました。

校内にWi-Fiがあつて、教室に液晶プロジェクターがあつて、インターネットの画面を映すことができ、生徒の乗りが良いからこそできる授業ですが、数学のこんな内容でも歌や手振りで楽しめるなんて、この学校ならではのことだと思っています。授業をする方も楽しくてやりがいがあります。実は授業を楽しんでいるのは生徒のみなさんより私の方かもしれません。

## ●SIS Grade 8 中部部2年生

志垣満理

SIS 8年担任、生活科学科

4月に新7年生を迎え、先輩になった8年生。廊下で見かける新7年生と比べると、去年はこんなだったのに、大きくなったなあと感じます。ですが学校にもすっかり慣れ、少ししたるんでくると感じることもしばしばです。常に120%の力は求めませんが、自分がやるべきこと、できる事に対しては手を抜かずしっかりと取り組んでくれることを期待しています。

8年生の夏からは、内部進学のプロセスが始まります。内部進学と聞くと、高等部に「上がれる」、「上がれない」ということに意識が行きますが、そうではなく、自分が「上がる」のか、「上がらない」のかということで自分の進路について考える機会にしてもらえればと思います。まだ、進路だ、将来だと言われてもピンと来ないかもしれませんが、自分の進路、将来というのは、今の自分から離れたところにあるものではありません。現在の自分の学びや経験の先につながっているのです。今、頑張っていること、楽しんでいること、大切にしていることが将来の自分をつくれます。そういった意

味で、SISの高等部は皆さんが学ぶ場として最適ですか。もちろん、SISは素敵な学校です。色々な可能性を広げてくれる場所です。でもそれは、高等部に上がると「もれなくついてきます！」というものではありません。自分から求めて努力して行かないと何も得ないまま卒業することになってしまうかもしれません。SISの高等部でしっかり頑張っていきたいと思う皆さんは、是非ともその進路を自分自身の意思で選んでもらいたいと思います。そのために今、自分ができる事はなんでしょう？日々の勉強をがんばる、色々なことに挑戦する…。この前、朝の放送で平井先生が紹介してくれていた言葉に「努力は報われるとは限らない。でもしなかった努力は自分に返ってくる。」というのがありました。しなかった努力で後悔することがないように、今、この時期を大切に過ごしてくれる事を願っています。

### ●SIS Grade 9 中等部3年生

#### しっかり歩きましょう

間島啓次

SIS9年担任、理科

4月のスタートに上村青さん、5月に加藤夏望さんという新しい仲間を迎えて、新9年生がスタートしています。さて、今回は「9年生！しっかり歩きましょう！」ということをテーマに記事を書きたいと思います。

……………ん？何言ってるの？いつも歩いてるし！と、そういう意味ではありません。前に進めばいいんでしょ？何か挑戦する？…ってことでもありません。さて、「歩」という漢字をぼ～と眺めていると何か見えてきませんか？……………そうです、「少し止まる」と書いて「歩」です。

話は変わって9年生、私が7年生の頃から見ていて今年で3年目。紆余曲折と色々ありましたが、変わらないのは「とにかく元気！」。あれがしたい、これがしたい、クラス委員も取り合い奪い合い、良い意味でやりたがりがたくさんいます！学園祭も案がたくさん出たし、とにかく決めごとはぶつかっちゃって、些細なことでも泣き笑いのドラマが生まれました。

今、そんな9年生を見ていて思うのは「少し止まってみませんか？」です。まだ中学生であり、でもHigh Schoolという少しややこしい立場、でもMiddle Schoolではない、しっかりHigh Schoolの生徒です。この違いだけでもやれることは8年生に比べてかなりたくさんあり、もちろん現9年生は何か発表があるとすぐ質問して興味があれば颯爽と走りだします。素晴らしいことですね。でも、そろそろ味わっている人も多いのではないのでしょうか？「やり過ぎな人」。何かトライすることはとても良いことですが、あれこれとやり過ぎて全部中途半端に終わればとても残念です。それよりも何か1つの事をしっかりとやり通すということの方が自分にとってはるかに意味のあることです。そして中々できることではありません。とっても難しいことです。でも君らのパワーがあれば大丈夫なはず！色々やり過ぎな9年生、中途半端に終わらないで、時には止まって自分の立ち位置を確認しましょう！できることをしっかりやりつくしましょう！一步一步、しっかり歩いてやりましょう！

### ●SIS Grade 10 高等部1年生

Steve Sheriff

SIS Gr.10 HR Teacher

The legendary baseball manager Sparky Anderson once said, “Good seasons start with good beginnings.” Anderson knew

that the spring practices and early games set the tone for the entire season. Just like in baseball, it is important to start the school year with a strong foundation in order to lead to future success. That said, the grade 10 students are off to a great start.

The year started on a sunny Tuesday morning with the High School Entrance Ceremony. This was my first time to be involved in an entrance ceremony at a Japanese high school and I was struck by the symbolic nature of the ceremony. The students marched into the gym as middle school graduates and left as high school students. The calling out of the names and inspirational speeches by students and staff reinforced the importance of this coming-of-age moment, prompting the students to reflect on how they will spend the next three years of high school. Afterwards, we took class pictures amongst the cherry blossoms in the courtyard, commemorating this important life transition. It was a lovely day and one, I am sure, the 10th graders will never forget.

The second major event of the year for 10th graders was the Icebreaking Camp in Sengari on April 17th-18th. After school on Friday, all the 10th graders gathered in the genkan to board buses headed to Sengari for an overnight trip with the purpose of building closer ties between classmates and helping the students set goals for their high school years. The energy level was set on high from the moment the students left the genkan to the moment they departed camp on Saturday afternoon. The mountain air at the camp site further invigorated the 10th graders. For me some of the highlights of the camp included watching the students work together to barbeque their dinner on Friday night and the sound of collective laughter during the games organized by 12th grade student leaders. The students seemed to enjoy staying in the cabins with their classmates. The camp climaxed with an interactive lesson about career choice and values clarification, lead by Professor Saka, from the accounting department at Kwansei Gakuin University. Her lesson required the students to both think deeply and communicate in small groups about their pasts and future goals in our rapidly changing global environment. I think this was the perfect topic for 10th graders to ponder at this time, as the decisions they make in this upcoming year will have a profound impact on their futures.

Lastly, each of the 10th grade classes has been working hard, planning and preparing for the school festival. Leaders have been elected, committees have been formed and now each class will work together to run booths during the May 24th festival. Although we are still early in the process, I have been impressed by the energy and creativity the students are showing. We are all excited to see the final results.

We have started the school year with some fun and exciting events, but all the 10th grade homeroom teachers have emphasized to the students the importance of concentrating on academics from the first week. It is important that all the students get off to a good academic start in order to meet their future educational goals. Here's looking forward to a great school year!



## ●SIS Grade 11 高等部2年生

## A Lady in the Boys' Toilet

Shammi Datta

SIS Gr.11HR Teacher

This is a true story about a lady in an SOIS boys' toilet. It happened 20 years ago.

Back then, some things were different. And others were remarkably same as today. SIS was called OIA (Osaka Intercultural Academy.) OIS was OIS. None of the current students were born yet. But just like today, many boys (and some girls) were thinking of balls before books. Many girls (and some boys) were perfecting their dance moves in front of mirrors.

Back then, you could also find a Rion respected by his kouhai, a Takuma leading a badminton team, an Anna beating the boys in tight matches, a Kai working hard on his academic English...and on and on. Twenty years ago, boys and girls were also excited about the school festival, the camps, the OIS graduation, and their future dreams.

Back then, Mr. Fukushima and Mr. Takahashi had a head full of naturally black hair, and Mr. Datta just had a head full of hair. Most SIS students also had a head full of naturally black hair. The hair products companies had yet to create the Chapatsu boom.

So different, yet so same was SOIS... back then.

One such day back then, there she was, bent in front of a boys' urinal. I was not shocked to see the lady bent in front of a boys' urinal – it is perfectly common in the culture we live in. In fact, you could still see such a scene in a boys' toilet today at SOIS. I don't know her name, or her age, but I will never forget her face. A face that emitted beauty – a respectable beauty, that only 60+ years of life would create.

I was shocked, however, when I saw that the lady was cleaning the boys' urinal with her bare hands! Without thinking, I blurted, 「えっ、素手ですね！手袋とか使わないのですか？」(“You are cleaning with bare hands! You do not use gloves!?”)

Without taking her eyes (and her bare hands) off the urinal, she replied in a calm voice – a calmness that only 60+ years of life would create, 「子育てしていたらこれぐらいどうってことないですよ。生徒さんも皆私の子供のようなもんですよ。それに、素手の方が綺麗にしやすいですし、汚れがとれているかどうかもわかります。」(“Having raised children, this is nothing. Students here are all like my children. Moreover, it is easier to clean and check cleanliness with bare hands.”)

She went on calmly about her cleaning duties, but I was dumb struck. The old lady cleaned our toilets with the same commitment with which she had raised her kids. She thought of each one of us in the school as her child!

This is the simple story of a simple lady in the boys' toilet at SOIS.



## ●SIS Grade 12 高等部3年生

合志智子

SIS12年担任、情報科

担任はG11と同じ4名、新たに3名の編入生を迎えて79名でG12のスタートです。

## ◆学年旅行◆

昨年度G11の学年旅行は、これまでの流れを変えました。その頃SISにいなかった宗正先生と私にはわからないことですが、変えたというより15年ほど前のSIS学年旅行の精神に戻したと言うことになるそうです。

「観光やショッピングが主となる単なる思い出づくりの旅ではなく、学習旅行とする」

- ①この学年が目標としている、「知識を持ち、思いやりを持ち、創造力を持って世界に貢献する個人」に沿って、学習テーマを設定する
- ②普段体験できないようなこと、生徒だから体験できることをする
- ③体験したことは旅行中に報告会で発表する

これらをガイドラインとして最初に学年全体に示し、学年で何かを決めるとき、いったん決まったことに不満が出てきたとき、旅行委員会で話し合いをするとき、そういう時はいつもこのガイドラインに沿って進めていきました。そもそも学年旅行というのは、仲の良い友達との旅行や家族旅行とは、目的や内容が大きく異なるのは当たり前の話です。マレーシアでの学年旅行の様子や半年間の旅行委員長の苦悩(苦労?)は、生徒からの報告にあるのでここでは触れませんが、総括すると「学習旅行で大正解。しっかりと準備するととても良い学年旅行になる。」です。旅行委員が良く頑張ってくれて、学年のみんなもとてもよく協力し理解してくれたおかげで、さまざまな不運が全部幸運に変わってしまった旅行となりました。



学年旅行中の担任

## ◆学園祭◆

G12は最後の学園祭になるので、「タイムスリップ(イタリア)」をテーマにした店を、同じ場所にずらっと並んで出しました。不思議なもので、学年旅行に行くと間違いなく学年の結束がとても強くなるようです。4月初めにあつという間に各クラスの委員が集まって調整し、4クラスで並んで出店すること、Tシャツ、エプロン、タオルとアイテムはクラスごとに様々だけれど共通デザインのロゴを付けた店のユニフォームを身に付けること、パン・ピザ・パスタ・デザートと重複しないメニューにすることが決まりました。学園祭当日は生徒ラウンジがおしゃれなイタリアンレストラン街になり、たくさんの方が行列を作ってくださって早々と完売しました。その勢いのまま、また多くの生徒が後夜祭で最後のステージを楽しみました。

## ◆進路◆

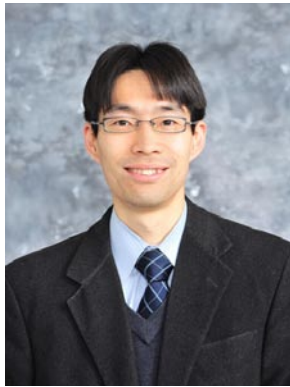
5月の連休明けのSabers TVでPE科の平井先生が、スポーツの心構えとして紹介して下さった言葉は、「努力は裏切らない」、しかし「努力は報われるとは限らない」、ただ「しなかった努力は自分に返ってくる」でしたが、進路でも全く同じことが言えます。進路を決めるにも、良い結果を得るのにも努力は欠かせません。しかし、努力したからと言ってそれが結果に結び付かないことも多々あります。ただ、努力しなかった付けはいつも自分に確実に回ってきます。この言葉をいつも心の中に、そして忘れそうになったら「平井先生→例の言葉」と言うように芋づる式に思い出してほしいと思います。

## 〈新任あいさつ〉

山田優介

SIS数学科

本年度から関西学院千里国際中等部・高等部にてお世話になります数学科の山田優介です。昨年度までは神戸市須磨区にありまます関西学院大学への継続校にて12年間数学科の教員をしていました。私自身は1996年3月にSISを卒業した第3期生になります。数学科の教員として働くにあたって、いつかは母校に戻りたいと思っていましたが、12年間の教員生活を経てついにこの4月から母校の教壇に立てることになりました。



SIS1年目の今年は7年3組の担任をさせて頂いていますが、実は昨年まで働いていた学校も中高一貫校で、その時は中学1年生から高校3年生までの6年間を持ち上がりで担当していましたので、今までの12年間は6年間の持ち上りをちょうど2周終わったところでした。ついこの間の3月に高校3年生の卒業生を送り出し、そして再び7年生ということで、また新たな気持ちで頑張っております。

ここSISの自由な校風や学校の雰囲気は変わることなく懐かしく感じていると同時に、学校の前の道が開通し周りの雰囲気が変わったことに少し戸惑いながらも、この学校の様々な特長を失うことなく今まで続けていることを卒業生としては非常に嬉しく思っています。

本当にこのすばらしい学校を、これからすばらしい学校として続いていくよう、微力ながらも頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

河野光彦

SIS理科

理科を担当しています河野光彦です。高校を卒業した後、京都→愛知→英国→東京→愛知→豪州と渡り歩いた後、28年ぶりにふるさと大阪に戻ってきました。学位をとってからほぼ20年研究一筋にきましたが、この4月からは今までまったく想像もつかなかった生活がスタート。新たなチャレンジで人生の後半戦を迎えても悪くはないかなと思っています。SISの生徒たちを前に悪戦苦闘の日々ですが、これから自分がどんな先生になっていくのか、どんなことが出来るようになっていくのか、まるで他人事のようにワクワクしています。



今までの研究と自己紹介を少しだけさせていただきます。これまで、物理・化学の分野で研究してきましたが、その中でも、「光」と「原子・分子」についての研究実験を行ってきました。また関連して、地球大気環境についての研究もしました。レーザーはもとよりシンクロトロン放射など使って、赤外から可視・紫外・真空紫外までのあらゆる光を原子や分子にあてて、それらの振る舞いを調べ

るという実験で、基礎科学と呼ばれる研究です。興味を持ってもらえると嬉しいです。

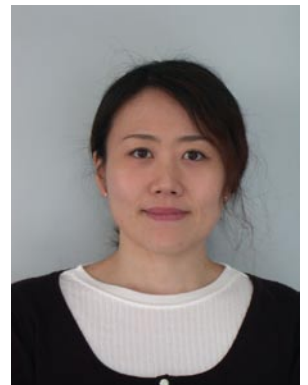
この3月までは、オーストラリアの首都キャンベラに14年間住んでいました。Australian National University で働いていましたが、首都ならではの雰囲気のあるところでした。人口は30万人あまりの小さな都市ですが、公務員・政治家・大学関係者とその家族が多く、日本人も企業関係者ではなく大使館員か大学の先生や学生もしくは国際結婚で来られた方がほとんどです。キャンベラには日本人学校はなく、日本の子供たちは現地校に通い土曜日になると補習校で国語と算数の勉強をします。日本人コミュニティにおける補習校の役割は大きく、保護者全員が教師・児童生徒とともに教育を作り上げていく場になっています。このキャンベラ補習校で11年間お世話をさせていただいた、まだ次女は補習校に通っていますが、その経験を活かしたいと思っています。

家族はキャンベラに妻と二人の娘がいます。長女は英国Bristol生まれで今12年生、次女はキャンベラ生まれで今6年生です。どちらも日本の教育を受けた経験がないので、SIS/OISの生徒たちとよく似た感じであり、帰国生や多重国籍のお子さんを持つ保護者の方々と少しでも思いを共有できればと願っています。少し歳をとっていますが新人ですので、この学校の教師としてふさわしくなれるようしっかりと育ててください。どうぞよろしくお願いいたします。

武田 佳

保健室

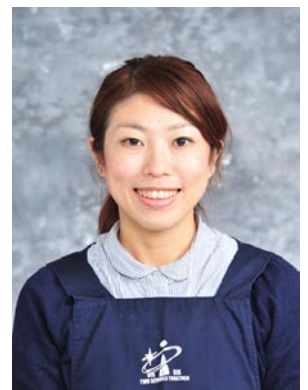
はじめまして、新しく保健室を担当しています武田 佳と申します。1ヵ月がたち、もうすでに元気で活発な生徒のみなさんと楽しく過ごさせていただいています。私自身、世界を旅して人々と触れ合うことが大好きで、今回この千里国際キャンパスで過ごすことができる機会に恵まれたことに、幸せを感じています。健康で楽しい学校生活を送れるよう、お手伝いさせていただきますので、いつでもお声掛けください。よろしくお願いいたします。



湯山友生希

図書館

はじめまして。4月より図書館で働くことになりました湯山友生希です。SOISでは初めて経験することが多く、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。みなさんと一緒に様々なことを学べる仕事に就くことができ、とてもうれしく思っています。わからないことがあれば気軽に声をかけてください。よろしくお願いいたします。





## 2014年度SIS入試結果

| 中1      | 志願者数 |   |    |    |    |    | 受験者数 |   |    |    |    |    | 合格者数 |   |    |    |    |    |
|---------|------|---|----|----|----|----|------|---|----|----|----|----|------|---|----|----|----|----|
|         | 海外   |   | 国内 |    | 計  |    | 海外   |   | 国内 |    | 計  |    | 海外   |   | 国内 |    | 計  |    |
|         | 男    | 女 | 男  | 女  | 男  | 女  | 男    | 女 | 男  | 女  | 男  | 女  | 男    | 女 | 男  | 女  | 男  | 女  |
| 帰国生     | 2    | 4 | 10 | 13 | 12 | 17 | 2    | 4 | 8  | 11 | 10 | 15 | 2    | 4 | 5  | 10 | 7  | 14 |
| 一般生・国際生 |      |   | 39 | 57 | 39 | 57 |      |   | 38 | 57 | 38 | 57 |      |   | 25 | 38 | 25 | 38 |
| 合 計     | 2    | 4 | 49 | 70 | 51 | 74 | 2    | 4 | 46 | 68 | 48 | 72 | 2    | 4 | 30 | 48 | 32 | 52 |

| 高1      | 志願者数 |    |    |    |    |    | 受験者数 |    |    |    |    |    | 合格者数 |   |    |   |   |    |
|---------|------|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|------|---|----|---|---|----|
|         | 海外   |    | 国内 |    | 計  |    | 海外   |    | 国内 |    | 計  |    | 海外   |   | 国内 |   | 計 |    |
|         | 男    | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  | 男    | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  | 男    | 女 | 男  | 女 | 男 | 女  |
| 帰国生     | 3    | 10 | 5  | 5  | 8  | 15 | 3    | 10 | 5  | 2  | 8  | 12 | 1    | 8 | 2  | 1 | 3 | 9  |
| 一般生・国際生 |      |    | 9  | 11 | 9  | 11 |      |    | 9  | 11 | 9  | 11 |      |   | 5  | 3 | 5 | 3  |
| 合 計     | 3    | 10 | 14 | 16 | 17 | 26 | 3    | 10 | 14 | 13 | 17 | 23 | 1    | 8 | 7  | 4 | 8 | 12 |

## SIS春学期帰国生

入学広報センター

|            |                    |    |
|------------|--------------------|----|
| 《 国 別 》    | ベルギー               | 1  |
| アイルランド 2   | 韓国                 | 1  |
| アメリカ 10    | 中国                 | 4  |
| イギリス 1     | 国内 (インターナショナルスクール) |    |
| イタリア 1     |                    | 1  |
| インドネシア 1   | 計18ヶ国              | 37 |
| オーストラリア 3  |                    |    |
| カタール 1     | 《 学年別 》            |    |
| カナダ 2      | 7年生                | 17 |
| シンガポール 3   | 8年生                | 4  |
| ドイツ 2      | 9年生                | 2  |
| ナイジェリア 1   | 10年生               | 9  |
| ニュージーランド 1 | 11年生               | 2  |
| フランス 1     | 12年生               | 3  |
| ベトナム 1     | 計                  | 37 |

## 12万人のイベントに参加

どうも、生徒記者の亀田風篤です。今回のインターカルチャーから始まりました「生徒記者がいく!」。私が様々なイベントに潜入し、レポを書いていきます。

今回は紹介するのはこちら!「ニコニコ超会議」でございます!……第一回目からかなりマニアックなイベントですが気にせずいきましょう。こちらのイベントは動画サイトニコニコ動画での有名人が集合しイベントを行う、早い話ネットでの著名人を集めてお祭りをしたようなものです。場所は幕張メッセ。4月26日と27日の両日行われました。なんと来場者数は12万人を突破、ネットでの来場者は759万人を記録しました。私はニコニコ動画のユーザー記者30人のうちのひとりとして参加しました。そんな中始まった「超会議3」。この2日間、私は全力で働き、楽しみました! 記者同士で良い繋がりができたり、隣に座っている人は実は有名な人だったり、有名なゲームの製作者様に会えたりと、いいことづくめでした。皆さんも機会があれば参加してみてもいいでしょうか?

(Student Reporter F)

## The 5 Respects

Respect for Self

Respect for Others

Respect for Learning

Respect for the Environment

Respect for Leadership / Authority

## 5つのリスペクト

自分を大切にする

他の人を大切にする

学習を大切にする

環境を大切にする

リーダーシップを大切にする

## INTERCULTURE Student Reporters 紹介

今年度新たに3名がStudent Reporterに応募してくれました。亀田風篤君(SIS12)、宮崎真奈さん(SIS9)、岩崎有紗さん(SIS7)です。よろしくお願いします。

●どうも!この度インターカルチャーの記者をやることになった亀田風篤です。最高学年として頑張りたいと思います。これから毎号記事を書いていくのでそちらもよろしくお願いします。(Student Reporter F)

●宮崎真奈です。記事を書いたり取材したりするのは初めてですが、一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。(Student Reporter M)

●岩崎有紗です。入学したばかりで何もかもが初めてですが、そのまっさらな心で頑張りたいと思います。よろしくお願いします。(Student Reporter A)



## 編集後記

昨年度まで2名だったインターカルチャー生徒記者が3名になりました。しかもお互い全く知らない同士だった人たちが同じ目的で集まりました。今年度から週に1回、ミーティングをしています。今後ぜひ独自の取材による記事も作ってほしいと思っています。今号は、彼/彼女たちが写した写真を、おそらくこれまでで最も多く使っています。もちろんこれまで通り、プロである「せきの」さんの写真も使わせていただいています。これからも皆さんのご協力をよろしくお願いします。(馬場博史)

◆Editor: Hiroshi Baba ◆Proofreaders: SIS AOPR Centre ◆Student Reporters: Fuga Kameda (SIS12), Mana Miyazaki (SIS9), Arisa Iwasaki (SIS7)

## <SIS保護者会> 新会長・委員長紹介

### Board 執行部[BD]

会長 小林尊子

会長、副会長、書記、会計で構成され、保護者会総会、定例会、講演会の開催などのほかに、各委員会と連携をとりながら、SIS保護者会会員、学校、委員会、各学年、OISとを繋ぐパイプの役割をします。

本年度の活動目標を「確実、集中、楽しく」に、いたしました。微力ながら、年間行事運営、学年との連携など、私たちのスタイルで確実にコツコツ仕上げ、子どもたちに負けないくらいの集中力で全力投球を目標に、何かのご縁で集まったこのメンバーで楽しくやっていけるよう、頑張っていきたいと思っております。

子ども一人ひとりを大切に育てていただいているSISに感謝し、よりよい学校作りに向け皆さまのお力をお借りできたらと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



### Network Committee ネットワーク委員会[NW]

委員長 矢田淳子

NW委員会では、学校と保護者の皆さまをつなぐ連絡やサポートをしています。また、学年を超えて同じ地域に住む保護者の皆さまが交流を深められるよう、年に2回地域リーダー会を開催しています。学年の全委員と協力して開催する学年懇親会では子どもたちの学校での様子や学年の話が聞けますし、地域リーダーが開催する地域親睦会では違う学年の保護者の方からいろいろな学校のお話が聞けるチャンスですのでぜひご参加ください。それから地域名簿の作成や、新入生・編入生に学校や保護者会からの連絡が確実に届くようSOISメールの登録・転送手続きのサポートもしています。連絡先が変更になった場合はNW委員会までご連絡ください。一年間どうぞよろしくお願いいたします。



### Hospitality Committee ホスピタリティ委員会[HP]

委員長 織田ゆみ

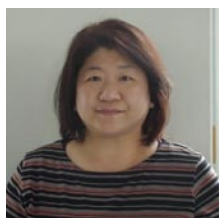
HP委員会では、学校で開催される行事(スポーツ表彰式、春・冬の高等部コンサート、国内・国際招待試合、All School Productionなど)のティーサービスや食事のサービスを行っております。サービスを通して、生徒たちの活動を応援するとともに保護者同士や先生方との交流も深めていきたいと考えています。より充実したサービスを提供できるよう、保護者の皆さまにはボランティアとして参加をお願いしております。行事に参加される皆さまに喜んでいただける、有意義で楽しい活動となるよう委員一同懸命頑張りますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



### Public Relations Committee 広報委員会[PR]

委員長 吉野雅美

PR委員会の活動はインターカルチャアでお知らせする記事の作成と保護者会ホームページの運営が中心となります。各委員会や学年からの行事のお知らせや報



告のほか、学校行事を取材し、保護者の皆さまと学校のつながりがより深まるお手伝いができますよう尽力いたします。皆さまに楽しんでいただける内容になるよう写真や動画を用いながら今年度メンバー8名全員で工夫を重ねてまいりますので、どうぞホームページをご覧ください。SISPAホームページ <http://www.sispa.jp/>

### International Fair Committee インターナショナルフェア委員会[IF]

委員長 神津留美

IF 委員は今年も国際色あふれるフェアの成功にむけて準備を開始しています。SISとOIS双方の保護者が協力し、両校の絆を深め合う毎年恒例の行事です。できるだけ多くの保護者の方々にご参加頂き、本校独特のインターナショナルフェアをぜひ成功させましょう。思い出深い楽しいイベントにするためにも、たくさんのボランティアのご参加をお待ちしております。本年の開催予定は11月15日(土)です。ご協力なにとぞよろしくお願い致します。詳しくはまたメールなどでお知らせいたします。



### SIS・OIS保護者主催

## International Fair

2014年11月15日(土)

今年もエンターテイメント出演者、ブース出店者、寄贈品、手作り品、ボランティア等を募集する予定です。多数のご参加をお待ちしています。詳細は、夏休み前にお知らせします。お問い合わせは、[sispa-if@soismail.jp](mailto:sispa-if@soismail.jp)まで



2013 International Fair

### 各委員会へのお問い合わせアドレス

|                    |  |
|--------------------|--|
| Board              | <a href="mailto:sispa-bd@soismail.com">sispa-bd@soismail.com</a> |
| Network            | <a href="mailto:sispa-nw@soismail.com">sispa-nw@soismail.com</a> |
| Hospitality        | <a href="mailto:sispa-hp@soismail.com">sispa-hp@soismail.com</a> |
| International Fair | <a href="mailto:sispa-if@soismail.com">sispa-if@soismail.com</a> |
| Public Relations   | <a href="mailto:sispa-pr@soismail.com">sispa-pr@soismail.com</a> |